

Title	構造の文体論 : 資料分析
Author(s)	舟阪, 晃
Citation	大阪外国語大学学報. 20 p.49-p.88
Issue Date	1968-12-25
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/80327
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

構造的文体論 — 資料分析

舟 阪 晃

Structural Stylistics — Data Analysis

Akira Funasaka

The aim of this paper is to investigate stylistic characteristics of such data as : Lawrence, *The White Peacock* (1), *Sons and Lovers* (2), & *Lady Chatterley's Lover* (3); Maugham, *Of Human Bondage* (4), *The Moon and Sixpence* (5), & *Cakes and Ale* (6); Fitzgerald, *The Great Gatsby* (7), *Tender is the Night* (8), & *The Last Tycoon* (9); Hemingway, *The Sun Also Rises* (10), *A Farewell to Arms* (11), & *The Old Man and the Sea* (12); *Time* (13, 14&15) & *The New York Times* (16, 17&18).

0. 目 的

資料分析を通して、「集合文体」と「個人文体」との言語的特徴を調査すること。

1. 構造的文体論

文体論についての筆者の考え方については、拙稿「構造的文体論への予備的考察」⁽¹⁾、「『集合文体』について」⁽²⁾などでのべたのでここでは省略し、基本的な論点のみを列記しておく。

1. 文体は言語表現形式の選択パターンである。
2. 構造的文体論は言語表現形式の選択パターンの構造を研究するもので「行動科学」(sciences of behavior) の一分野であると考え。したがって、構造的文体論の目標は文学研究ではなく、人間の言語的行動パターンの理解である。
3. 文体には「集合文体」と「個人文体」とがある。簡単にいえば、前者は詩の文体、口語の文体、談話の文体などを含むもので、後者は文字通り個人の文体である。さらに、もう一つ「言語の文体」を付加することもできる。これは、「集合文体」「個人文体」にかかわりなくあらわ

(1) 大阪外国語大学学報 Vol. 19. (1968)

(2) 大阪外国語大学英語学科「英米研究」

れる特定言語の使用パターンである。「英語の文体」、「日本語の文体」というふうにあらわす。

4. 構造的文体論の前提

4.1. すべての表現パターンのちがいは、すくなくとも頭で理解、認知できるかぎり、記述できる。

4.2. 同一の表現形式は、他の条件が同じならば、同一の印象を与える。

4.3. 人間の発話は、外的内的条件が同じならば、恒常的な特徴をもっている。

2. 資料分析

2.1. 分析方法

現実の発話の分析方法については、拙稿「英語の深層構造」⁽¹⁾や「構造的文体論への予備的考察」でのべたのでここでは省略する。

文体的分析、調査は言語のあらゆるレベルでおこなわねばならないが、この小論では形態素配列論の一部、とくに、構造の分布に焦点をあてることにする。

2.2. 資料

分析の対象とした資料は下記の18である。一つの資料について3,000語の長さの部分を選んだ。なお、地の文と会話体の文とは外的条件がちがうので、後者は対象からはおいた。

一人の作者の作品を三つ選んだのは個人の文体が恒常的な特徴をもっていることを示したかったからである。また、小説と新聞・雑誌の記事を対象としたのは集合文体について言及したかったからである。

資料

- (1) Lawrence, D.H., *The White Peacock* (1911) ①⁽²⁾
- (2) *Sons and Lovers* (1913) ②
- (3) *Lady Chatterley's Lover* (1928) ③
- (4) Maugham, W.S., *Of Human Bondage* (1915) ①
- (5) *The Moon and Sixpence* (1919) ②
- (6) *Cakes and Ale* (1930) ③
- (7) Fitzgerald, F.S., *The Great Gatsby* (1925) ①
- (8) *Tender is the Night* (1934) ②
- (9) *The Last Tycoon* (1941) ③
- (10) Hemingway, E., *The Sun Also Rises* (1926) ①
- (11) *A Farewell to Arms* (1929) ②

(1) 大阪外国語大学学報 Vol. 18 (1968).

(2) この番号は資料に言及するときに用いられる。e.g. Lawrence ①.

- (12) *The Old Man and the Sea* (1952) ③
- (13) *Time*⁽¹⁾ (Mar.11, 25, April 8, May 27, June 24, 1966) ①
- (14) (July 8, 15, Aug. 12, 26, Sept. 2, Oct. 7, 21, 1966) ②
- (15) (Oct. 28, Dec. 16, 30, 1966; Jan. 13, Feb. 3, 24, 1967) ③
- (16) *The New York Times*⁽²⁾ (Jan. 7, 14, 21, 28, Feb. 4, 11, 1968) ①
- (17) (Feb. 18, 25, Mar. 3, 10, 17, 24, 1968) ②
- (18) (Mar. 31, April 7, 14, 21, 28, May 5, 1968) ③

3. 分析結果

3.1. 構造型 (construction types) の分布パターン

英語のすべての文は以下の五つの構造型によりカバーできると思われる。⁽³⁾

- (1) NP+VI (Type 1)
- (2) NP+VT+NP (Type 2)
- (3) NP+VB+C (Type 3)
- (4) NP+VC+NP+C (Type 4)
- (5) NP+VD+P+NP (Type 5) NPは noun phrase で名詞, 代名詞のほかに, はめこみ文 (embedded S) も含む。VI, VT, VB, VC, VD は動詞の下位分類で, VI はいわゆる自動詞, VT は他動詞で Vmid (*have, resemble* etc.) も含む。VB は Vb と be とに下位分類される。

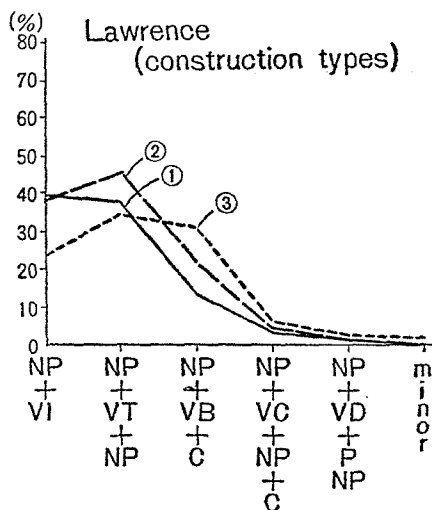
資料 構造型	Lawrence			Maugham			Fitzgerald			Hemingway			Time			NYT		
	(1) ①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
Type 1	(%) 39.8	38.0	23.8	26.8	19.6	20.8	35.0	27.6	45.9	41.0	40.0	33.2	14.7	22.8	18.9	20.1	14.7	16.5
Type 2	38.6	45.8	36.1	54.2	46.4	48.0	37.6	44.2	49.2	37.6	35.2	44.3	51.9	63.3	55.2	60.3	70.8	65.1
Type 3	13.8	22.4	31.7	16.8	19.0	20.4	14.6	14.6	18.4	17.4	17.6	16.6	18.3	11.1	14.4	21.6	21.6	25.5
Type 4	3.0	3.4	6.2	3.8	4.0	6.2	2.4	2.6	8.4	2.4	4.4	2.3	4.5	5.1	4.5	3.6	2.4	5.7
Type 5	0.2	0.2	0.7	0	0.6	0.2	0	0	0	2.2	0.6	0	0.3	0.9	0.3	1.5	0.3	0.3
minor	(2) ③ 0	0	1.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第 1 表

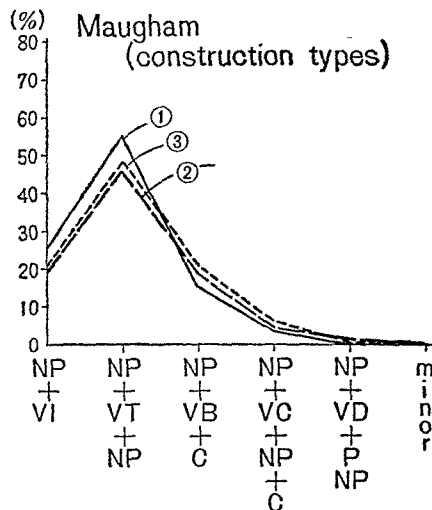
- (1) 政治を扱った記事。
- (2) 政治を扱った社説。
- (3) くわしくは「英語の深層構造」参照。

Vb は be と同じ機能を持つbe動詞でない動詞である。VC は目的語とその補語を必要とする動詞、VD は前置詞＋名詞句の構造を必要とする動詞で、*belong*(to), や *range* (from A to B) などである。C は補語 (complement) である。

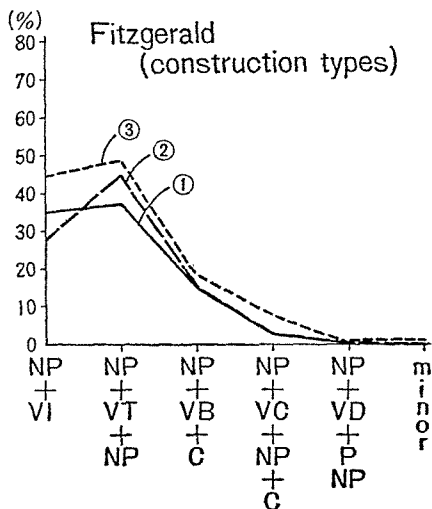
第1表の数値を作者ごとにまとめてグラフにしたものが第1図である。



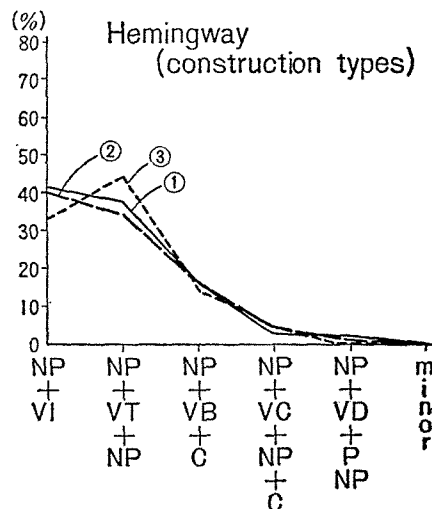
1.1図



1.2図



1.3図

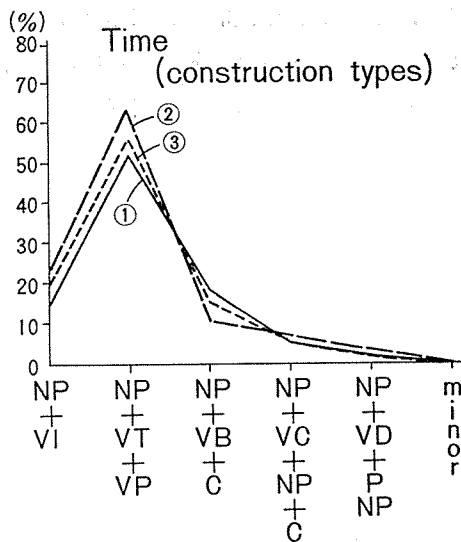


1.4図

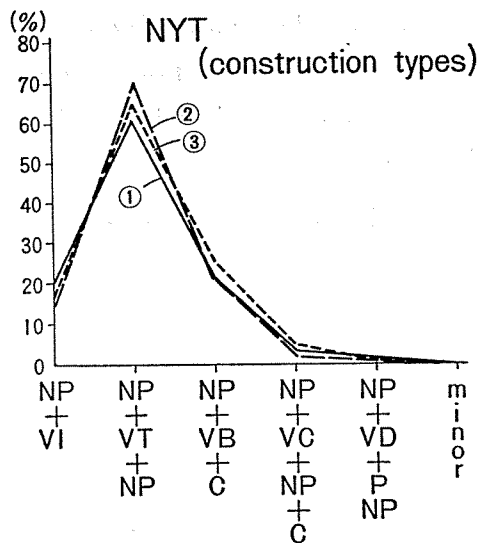
(4) この番号は資料の番号である。

(5) ここでいう minor はいわゆる「小文型」(minor sentence) よりはやや小さいものである。「小文型」の大部分が「大文型」の変形として説明できることは「英語の深層構造」で述べた。

(6) この表にあげた数字はすべて百分比である。合計が100にならないのは小数点以下2位を四捨五入したためである。

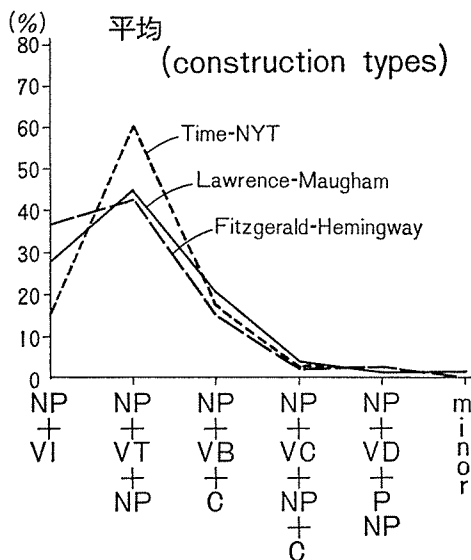


1.5図



1.6図

第1表の数値を Lawrence-Maugham, Fitzgerald-Hemingway, Time-NYT の三つのグループにまとめ、それぞれの平均をだすと1.7図のようになる。



1.7図

第1表についての考察

(1) 個人文体のレベル

(a) Maugham, Time, NYT においては、構造分布に関して高い一貫性がみられる。また、分布パターンも非常に類似している。

(b) Lawrence, Fitzgerald, Hemingway においては、最も多く用いられる構造型は Type 1 と Type 2 との間に変動する。その他の点では三者とも類似したパターンを示している。ただし、Lawrence の資料③だけは特異なパターンを示している。

(2) 集合文体のレベル

(a) 1.7図であきらかなように小説の文体では Type 1 と Type 2 との差は小さい。一方、Time-NYT では Type 2 が圧倒的に多用され、Type 1 は Type 3 と区別できない位の数値である。Type 3 から Type 5 までは個人文体、集合文体とも大きい差は認められない。

(3) 英語の文体のレベル

(a) 1.7図であきらかなように、英語でもっとも多用される構造型は Type 2 であるといえ

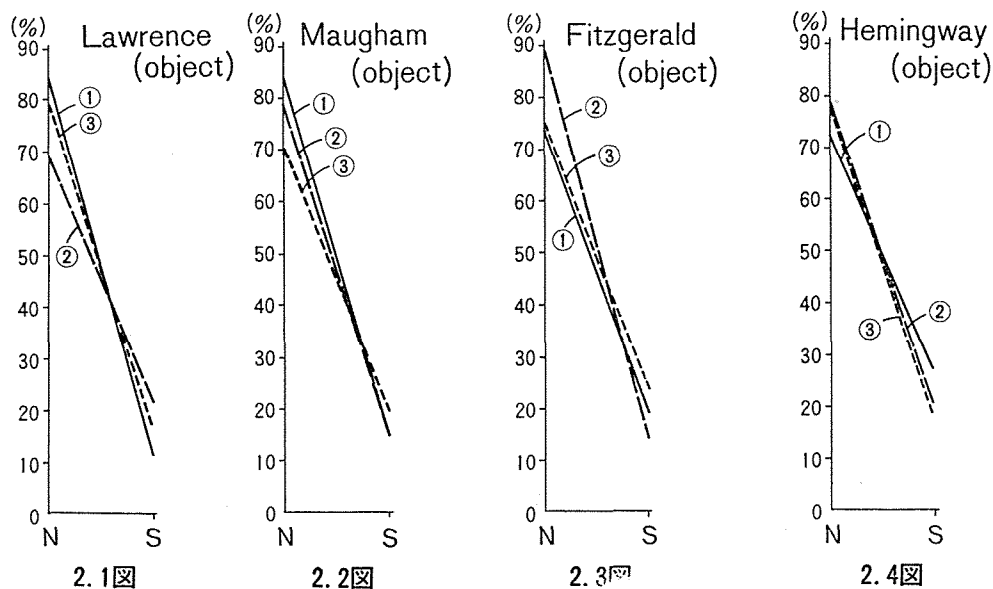
る。Type 2 につづいて多用されるのは Type 1 であるが、これは集合文体、個人文体ともに大きく変動する可能性がある。Type 3 以下の構造型においては、Type 3 が比較的多用されるが Type 4, Type 5 はほとんど用いられないといってもよい。とにかく、Type 3 ~ 5 は安定した分布を示しているといえる。

3.2 構造型Type 2 のpost-verbal NP の下位分類の分布

NP	Lawrence			Maugham			Fitzgerald			Hemingway			Time			NYT		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
N	(%) 84.5	69.6	79.2	84.7	79.2	71.6	74.0	89.5	74.4	72.1	79.5	79.4	70.2	87.5	78.0	83.5	76.4	90.2
ES	15.5	30.4	18.6	15.2	20.8	28.4	26.0	10.5	24.0	27.0	21.3	19.7	31.2	12.5	22.0	17.5	23.6	9.7

第 2 表

第 2 表のグラフを第 2 図に示す。



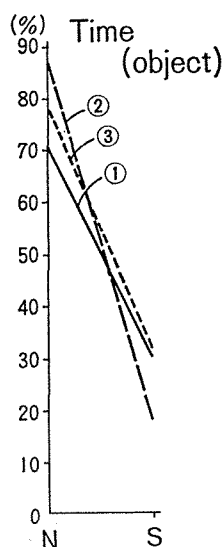
第 2 表についての考察

(1) 個人文体、集合文体のレベル

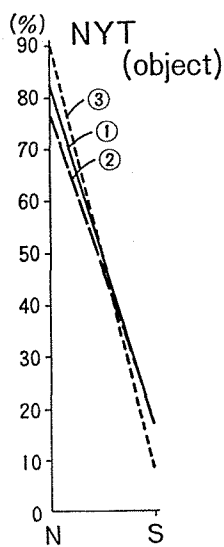
(a) NとESとの分布は安定しており、個人や集合による影響はほとんどない。

(2) 英語の文体のレベル

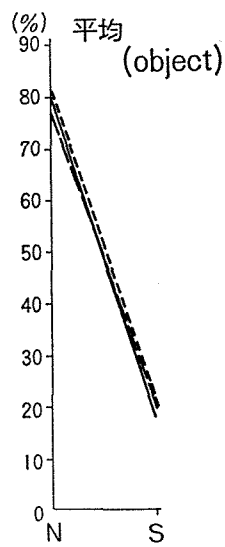
(a) post-verbal NP の80%前後はNである。



2.5図



2.6図



2.7図

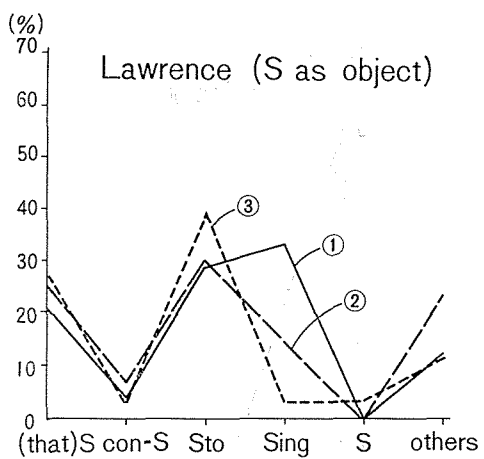
3.3. 構造型 Type 2 の post-verbal ES の下位分類の分布パターン

ES	Lawrence			Maugham			Fitzgerald			Hemingway			Time			NYT		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
that S	(%) 21.0	25.2	26.4	31.9	41.6	50.4	51.3	24.8	34.5	45.6	59.8	57.6	59.8	35.4	54.6	55.8	50.4	45.0
con- S	4.2	7.2	3.3	12.3	10.4	7.2	8.1	3.1	10.6	5.7	2.6	2.4	2.3	0	2.0	0	2.4	0
Sto	29.4	30.6	39.6	36.8	28.6	26.4	21.6	62.0	15.9	32.3	7.8	38.4	18.4	29.5	21.5	18.6	31.2	40.0
Sing	33.6	14.4	3.3	7.4	7.8	2.4	0	0	15.9	11.4	18.2	0	2.3	11.8	9.8	3.1	4.8	5.0
S	0	0	3.3	0	0	0	2.7	0	0	0	0	0	13.8	20.7	13.7	9.3	2.4	0
others	12.6	23.4	23.2	12.3	13.0	14.4	16.2	9.3	23.9	5.7	10.4	2.4	4.6	3.0	0	12.4	9.6	10.0

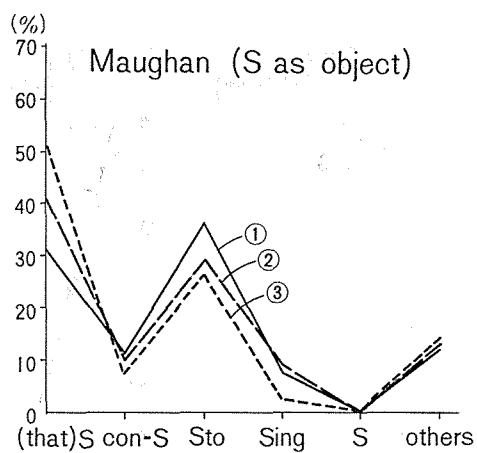
第 3 表

上表の that S は that を省略した節をも含む。con-S は connector+S で、この場合の connector は if, when, why, などである。Sto は to 不定詞句, Sing は ing 句, S は、文はめこみのための device が無いもので、引用文や挿入文などである。others は SNV, SNA, Sso など。SNV の例 : He saw *her* run. SNA の例 : He finds *her* fine. Sso の例 : I think so.

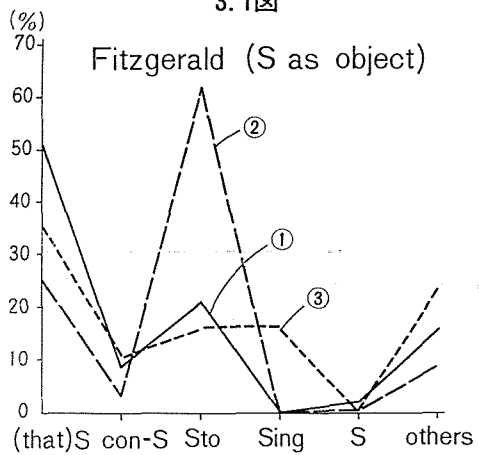
第3表をグラフにしたのが第3図である。



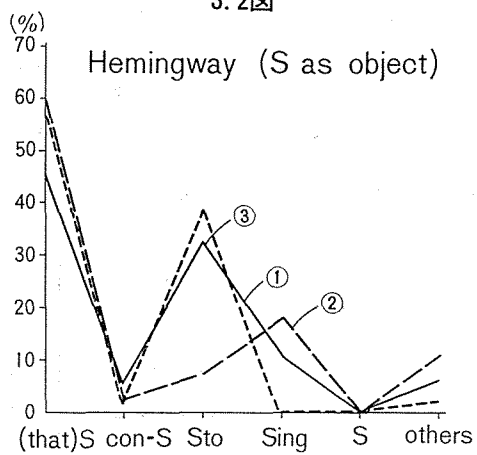
3.1



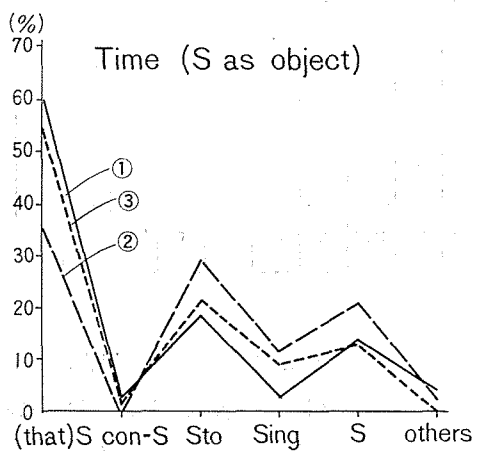
3.2



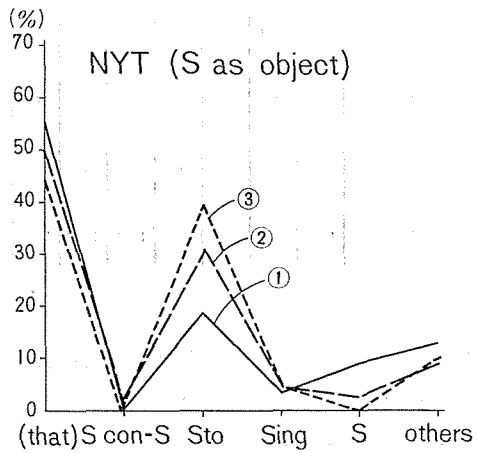
3.3



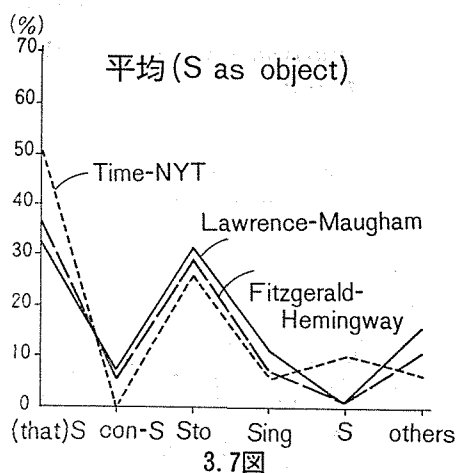
3.4



3.5



3.6



第3表についての考察

(1) 個人文体のレベル

(a) Maugham, Time, NYT ではそれぞれ一貫したパターンがみられる。

(b) Lawrence, Fitzgerald, Hemingway では安定したパターンはみられない。が, that S と con-S に関する限りある程度の一貫性がある。

(2) 集合文体のレベル

(a) 個人文体のレベルではかなり不安定な分布パターンを示しているが, 平均値を求めると, 3.7 図にあるごとく, 高い一貫性がみられる。

る。

(b) 小説と Time-NYT とのパターンのちがいがあきらかにでている。とくに, that S と S とにおいてそれが大きい。

(3) 英語の文体について

(a) はめこみ文は that S, Sto の形であらわれることが多い。

3.4. Type 3 構造の補語 (C) の下位分類における分布パターン

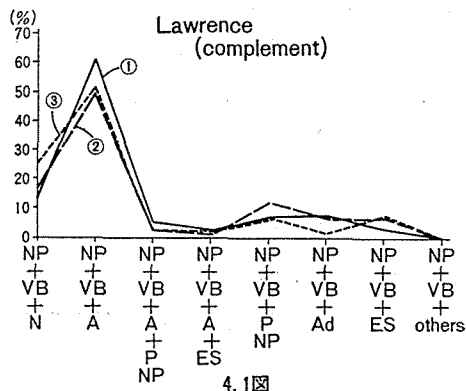
C	Lawrence			Maugham			Fitzgerald			Hemingway			Time			NYT		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
N	12.6	16.2	26.6	27.6	34.1	24.0	30.8	28.0	30.4	19.2	16.9	22.1	35.2	42.0	42.0	29.4	29.4	26.4
A	61.6	49.5	51.1	55.2	46.2	55.0	33.6	58.8	38.4	63.3	66.7	62.4	27.2	36.4	27.3	32.2	39.2	43.2
A P NP	5.6	3.6	3.5	1.2	2.2	3.0	8.4	4.2	1.6	1.1	0	1.3	9.6	5.6	0	0	2.8	3.6
A E S	2.8	0.9	1.4	2.4	3.3	5.0	8.4	1.4	9.6	1.1	1.1	0	8.0	2.8	0	12.6	5.6	7.2
P NP	7.0	12.6	7.0	7.2	7.7	5.0	7.0	4.2	14.4	1.1	5.7	5.2	4.8	0	10.5	12.6	2.8	8.4
A d	7.0	7.2	2.1	2.4	2.2	1.0	4.2	0	0	6.8	6.8	5.2	3.2	8.4	4.2	2.8	0	4.8
E S	2.8	7.2	7.7	3.6	5.5	9.0	8.4	7.0	8.0	4.5	2.3	5.2	11.2	5.6	14.7	11.2	21.0	8.4
others	0	0	0	1.2	0	0	2.8	1.4	0	1.1	0	1.3	0	0	2.1	0	0	0

第 4 表

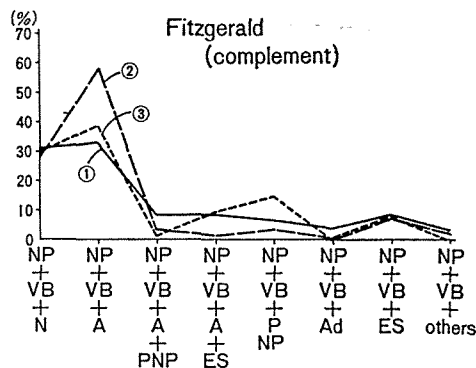
上表の記号について。N は名詞または代名詞, A は形容詞, P は前置詞, ES ははめこみ文

(embedded S), Ad は副詞。A+P+NP の例: He is not quite *free from blame*. AS の例: He is *eager to go*. P NP の例: Our crop is *in good condition*. Ad の例: School is *over*. S の例: The fact is *that* S. others: He is 10 *years old*. など。

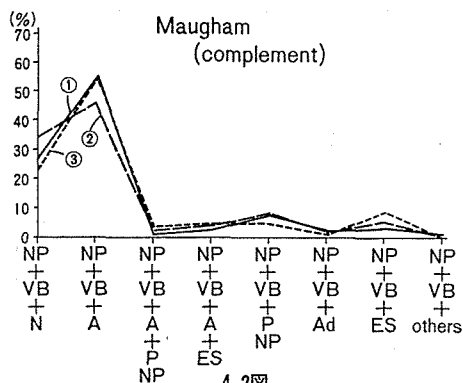
第4表のグラフは第4図に示す。



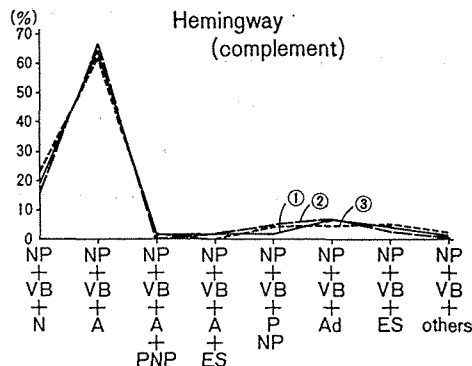
4. 1図



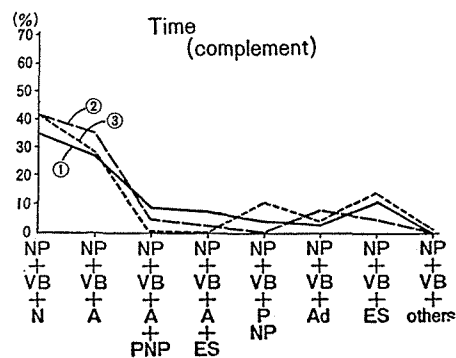
4. 3図



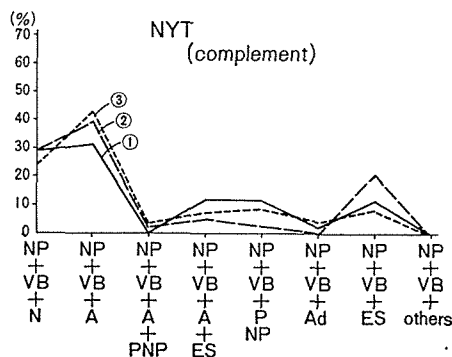
4. 2図



4. 4図



4. 5図



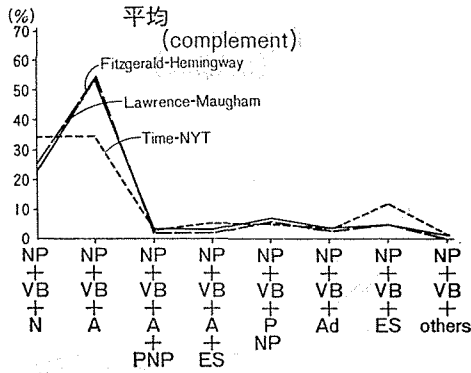
4. 6図

第4表についての考察

(1) 個人文体のレベル

(a) Lawrence, Maugham, Hemingwayでは一貫性が高い。とくに, Hemingwayではそうである。

(b) Fitzgerald, Time, NYTではパターンは安定していない。Time 以外ではNP+VB+A



4.7図

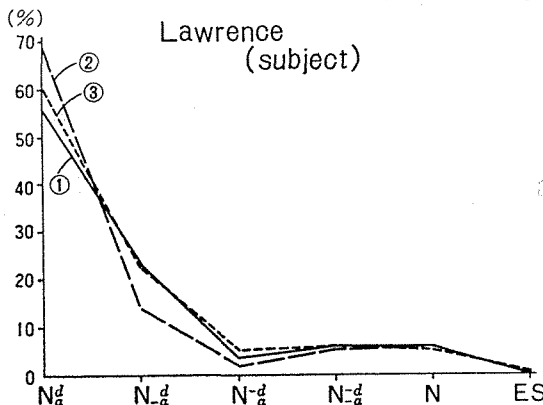
造はほとんど用いられないといえる。

3.5. 主語（全構造型について）の下位分類の分布パターン

主 語	Lawrence			Maugham			Fitzgerald			Hemingway			Time			NYT		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
N_a^d	(%) 56.2	68.4	60.6	67.3	58.7	60.8	48.8	47.6	60.8	59.0	62.0	54.6	40.6	43.2	40.3	28.8	34.3	20.5
N_{-a}^d	23.8	14.6	23.7	14.3	18.0	14.4	20.0	19.4	17.5	23.8	21.6	27.8	24.8	26.7	24.0	30.0	29.7	34.6
N^{-d}_a	4.0	2.7	5.3	2.3	2.6	5.8	4.2	9.6	8.8	6.8	2.0	3.6	9.9	10.2	9.0	1.4	7.8	6.5
N^{-d}_{-a}	6.6	5.2	6.2	6.1	7.0	6.0	10.6	10.2	5.8	5.8	4.6	3.0	17.5	13.3	15.7	24.1	9.5	17.3
N	5.8	5.9	5.3	6.5	9.5	5.0	4.0	10.2	8.0	4.6	6.0	4.2	6.9	6.7	10.9	14.6	15.4	16.5
ES	0	0.5	1.4	1.9	2.6	3.4	1.8	2.9	1.5	0.6	1.6	0.4	0	1.2	0	2.2	1.8	3.8

第 5 表

上表の記号について。N についている d/-d は definiteness/indefiniteness, a/-a は animateness/inanimateness をそれぞれあらわしている。 N_a^d の例; the house, John's house, etc. N^{-d}_a の例: a house, several houses, etc. N_a^{-d} の例: man, girl, etc. N^{-d}_{-a} の例; rock, house, etc. 上表の N は d/-d, a/-a のどちらとも判定できないもの。ES は主語の位置にはめこまれた文である。



5・1図

の方が NP+VB+N より多く用いられる。この点、Time のパターンは特異である。

(2) 集合文体のレベル

(a) 小説と Time-NYT との差は NP+V-B+N, NP+VB+A, NP+VB+ES などにみられる (4.7図)。他の構造では両者の差は認められない。

(3) 英語の文体のレベル

NP+VB+N と NP+VB+A とが圧倒的に多用される。なかでも NP+VB+A が多く用いられる。小説の場合にはとくにそうである。他の構

造はほとんど用いられないといえる。

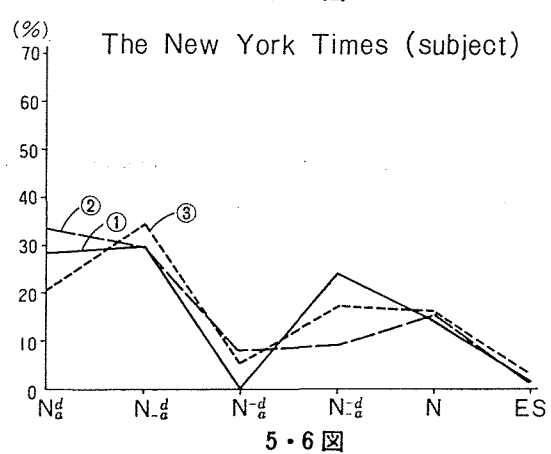
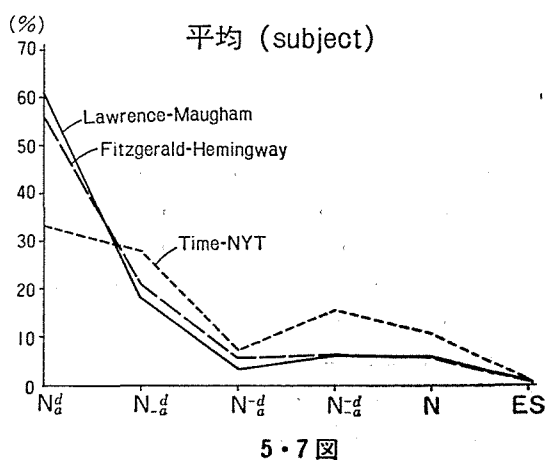
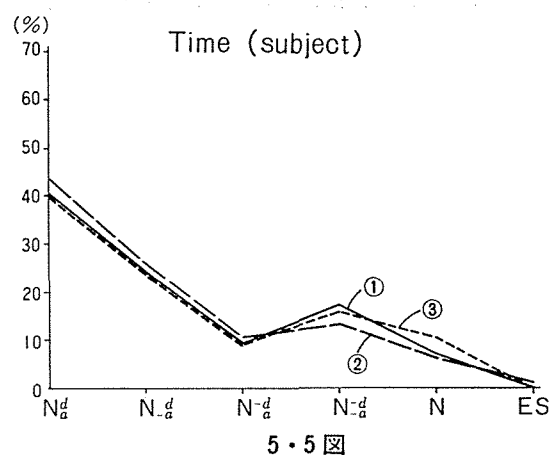
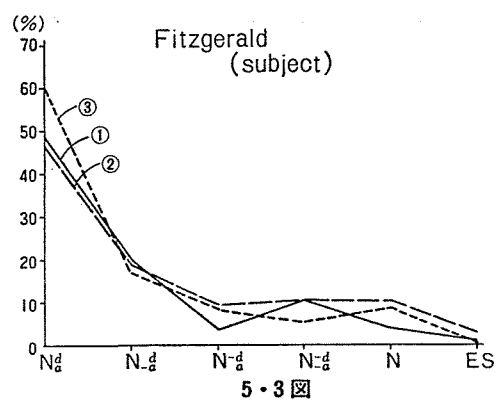
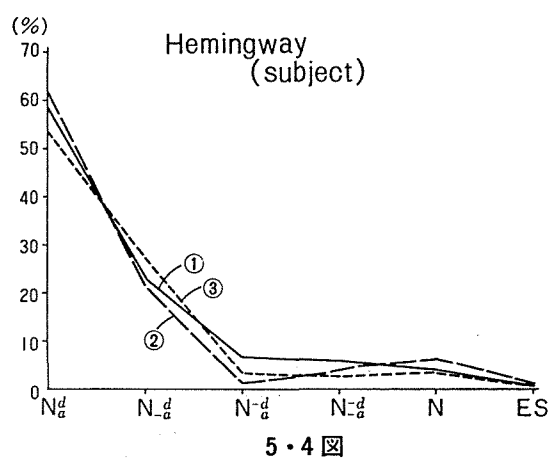
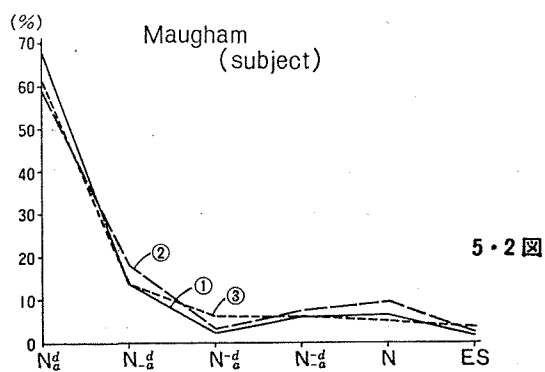
第 5 表のグラフを第 5 図に示す。

第 5 表についての考察

(1) 個人文体のレベル

(a) 全体的に安定したパターンがみられる。

(b) N_a^d に関して Lawrence, Maugham は Fitzgerald, Hemingway よりも



高い値を示す。Time, NYT では低い値にとどまり、かわりに N_{-a}^d の値が高くなっている。

(2) 集合文体のレベル

(a) 5.7 図であきらかなように、小説と Time-NYT とでは差が明白である。 N_a^d , N_{-a}^d , N_{-a}^{-d} でその差が大きい。

(3) 英語の文体のレベル

(a) もっとも多用されるのは N_a^d , N_{-a}^d で、 N_{-a}^{-d} がそれにつづく。 N_{-a}^{-d} , N はあまり用いられない。

3.6. 主語（全構造型の）の下位分類の分布パターン

主語	Lawrence			Maugham			Fitzgerald			Hemingway			Time			NYT		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
N^d	(%) 80.0	83.0	83.7	81.6	76.7	75.2	68.8	67.0	78.3	82.8	83.6	82.4	65.4	69.9	64.3	58.8	64.0	55.1
N^{-d}	10.6	7.9	11.5	8.4	9.6	11.8	14.8	19.8	14.6	12.6	6.6	6.6	27.4	23.5	24.7	25.5	17.3	23.8
N	5.8	5.9	5.3	6.5	9.5	5.0	4.0	10.2	8.0	4.6	6.0	4.2	6.9	6.7	10.9	14.6	15.4	16.5
ES	0	0.5	1.4	1.9	2.6	3.4	1.8	2.9	1.5	0.6	1.6	0.4	0	1.2	0	2.2	1.8	3.8

第 6 表

第6表のグラフを第6図に示す。

第6表についての考察

(1) 個人文体のレベル

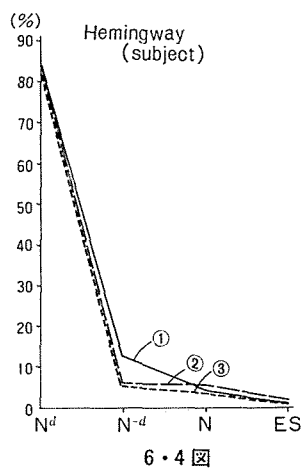
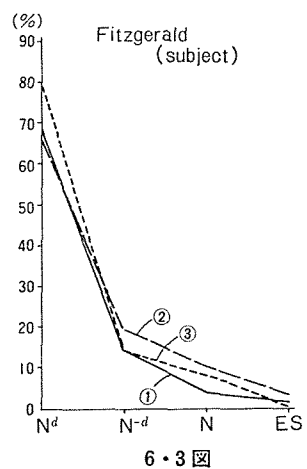
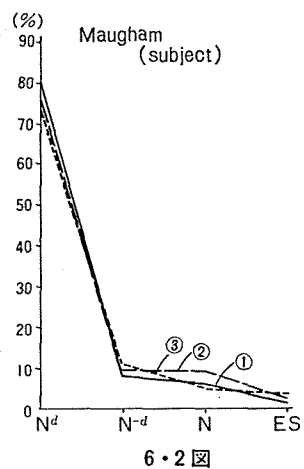
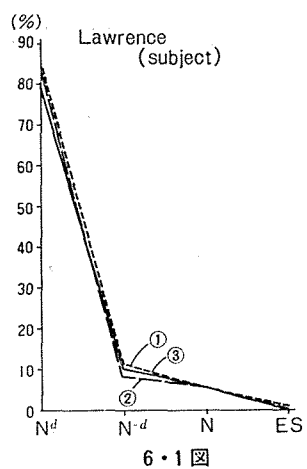
(a) 分布パターンは安定している。

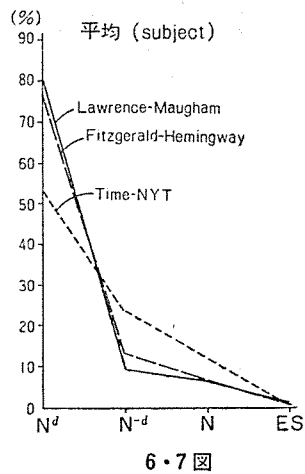
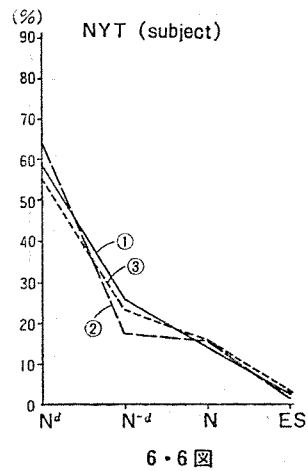
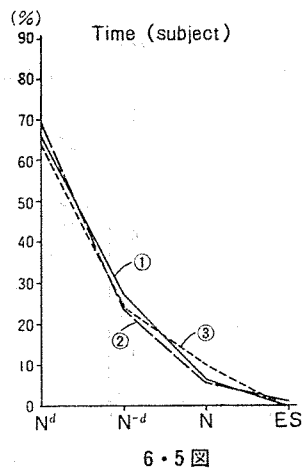
(2) 集合文体のレベル

(a) 小説では N^d が圧倒的に多く、 N^{-d} は少ない。Time-NYT では N^d と N^{-d} との差は小説のそれより小さい。(6.7図)

(3) 英語の文体のレベル

(a) N^d が圧倒的に多く50%以上の値を示す。



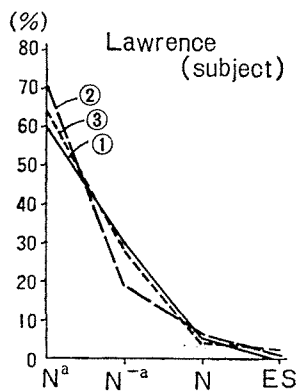


3.7. 主語（全構造型の）の下位分類の分布パターン

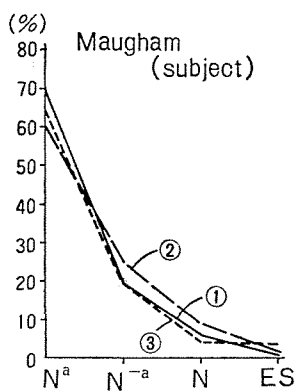
主語	Lawrence			Maugham			Fitzgerald			Hemingway			Time			NYT		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
N^a	(%) 60.2	71.1	65.3	69.6	61.3	66.6	53.0	57.2	69.6	65.8	64.0	58.2	50.5	53.4	49.3	30.2	42.1	27.0
N^{-a}	30.4	19.8	29.9	20.4	25.0	20.4	30.6	29.6	23.3	29.6	26.2	30.8	42.3	40.0	39.7	54.1	39.2	51.9
N	5.8	5.9	5.3	6.5	9.5	5.0	4.0	10.2	8.0	4.6	6.0	4.2	6.9	6.7	10.9	14.6	15.4	16.5
ES	0	0.5	1.4	1.9	2.6	3.4	1.8	2.9	1.5	0.6	1.6	0.4	0	1.2	0	2.2	1.8	3.8

第 7 表

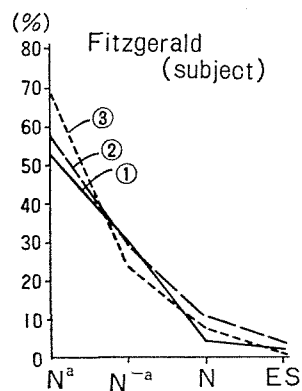
第7表のグラフを第7図に示す。



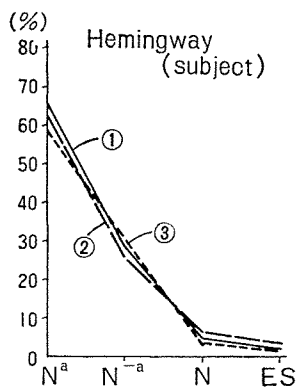
7・1図



7・2図



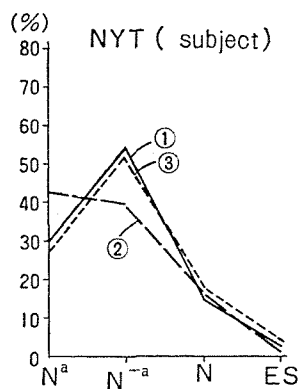
7・3図



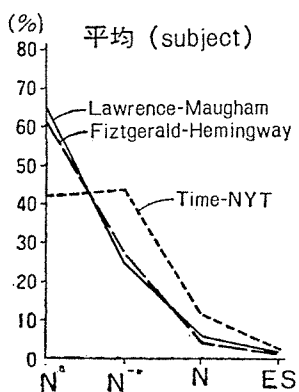
7・4図



7・5図



7・6図



7・7図

第7表についての考察

(1) 個人文体のレベル

(a) Maugham, Hemingway, Time で安定したパターンがみられる。

(b) NYTでは特異なパターンが生じている。

(2) 集合文体のレベル

(a) 小説と Time-NYT とは N^a , N^{-a} で大きな差を生じている。小説では N^a が圧倒的に多く、Time-NYT では N^a , N^{-a} の差は小さく、 N^{-a} の方が多くなる傾向がある (7.7図)。

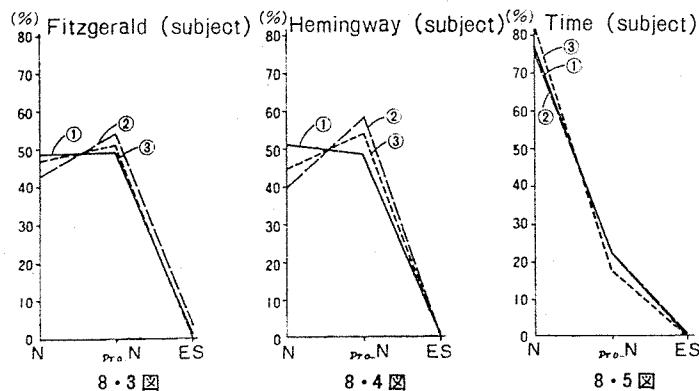
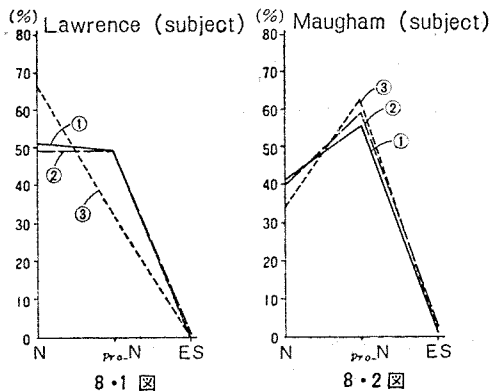
(3) 英語の文体のレベル

(a) N^a , N^{-a} の差は N^d , N^{-d} の差よりも小さく、資料によっては N^{-a} の方が優位にたつこともある。

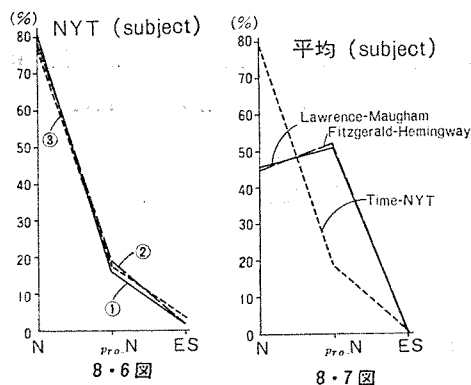
3.8. 主語 (全構造型の) の下位分類パターンの分布

主 語	Lawrence			Maugham			Fitzgerald			Hemingway			Time			NYT		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
N	(%) 50.8	49.7	66.2	41.4	39.2	34.3	48.4	42.6	47.5	50.6	39.7	44.9	77.2	76.0	81.9	81.2	78.6	77.5
pro-N	49.2	49.8	32.4	56.7	58.2	62.3	49.8	54.5	51.0	48.8	58.6	54.7	22.8	22.8	18.1	16.6	19.0	18.7
ES	0	0.5	1.4	1.9	2.6	3.4	1.8	2.9	1.5	0.6	1.7	0.4	0	1.2	0	2.2	2.4	3.8

第 8 表



上表の Pro-N は代名詞のことである。第8表のグラフを第8図に示す。



第8表についての考察

(1) 個人文体のレベル

(a) Lawrence の資料 ③ が特異なパターンを示しているが、他については安定したパターンがみられる。

(2) 集合文体のレベル

(a) 小説と Time-NYT とは大きな差を生じている。小説では pro-N と N とでは大差はないが、Time-NYT では N が圧倒的に多い。

(3) 英語の文体のレベル

(a) 主語の位置にくる N, pro-N については一般的なことはいえない。

3.9. 文連結 (sentence conjoining) の様式の分布パターン

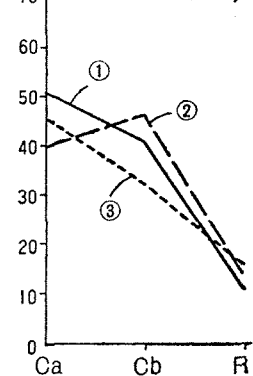
文連結は構造型に対して随意的なものを指し、文はめこみ (sentence embedding) は義務的なものを指すものとする。つまり、構造型の中の位置 (その構造を成立するために義務的である) にはめこまれるのがはめこみ文 (embedded sentence) であり、構造型にとって必須でない位置におかれた文は連結文 (conjoined sentence) であるとする。たとえば, *He began to write a letter, listening to the radio.* において, *to write a letter* (=Sto) は NP+VT+S という構造型を成立させるための必須項目であるから はめこみ文, *listening to the radio* (=Sing) は NP+VT+S にとって必須項目ではないので連結文として扱う。

conjoining	Lawrence			Maugham			Fitzgerald			Hemingway			Time			NYT		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
S C a S	51.2	39.2	45.5	58.1	50.4	48.4	47.6	47.9	48.5	57.6	59.6	53.9	39.1	32.2	21.8	24.0	26.1	29.4
S C b S	40.4	45.9	32.5	24.1	23.4	28.0	36.8	29.6	36.0	12.4	16.8	20.7	28.9	39.2	46.0	38.4	33.6	31.2
S R S	12.0	14.9	16.5	18.9	26.6	23.6	16.4	21.7	14.9	35.6	21.6	24.9	31.5	31.5	32.8	34.2	40.0	36.6

第 9 表

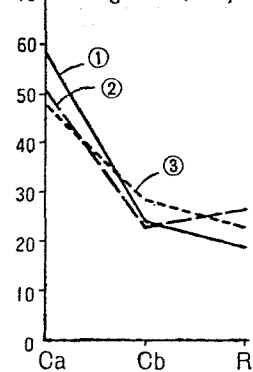
上表の記号について。S₁CaS₂のCaはいわゆる「等位接続詞」で、CaS₂, S₁という形にならない連結詞である。e.g. *John ate lunch and ran away.*And ran away, John ate lunch.* 一方, S₁CbS₂の場合は, CbS₂, S₁が可能である。SRSは関係詞 (relator) による連結である。第9表のグラフを第9図に示す。

(%) Lawrence (conjoining)



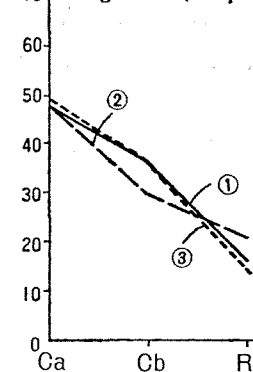
9・1 図

(%) Maugham (conjoining)



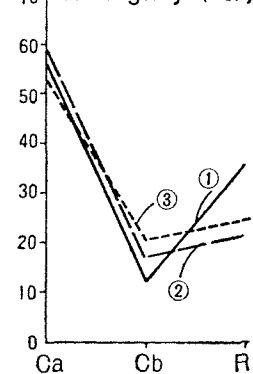
9・2 図

(%) Fitzgerald (conjoining)



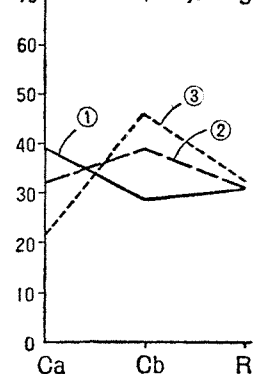
9・3 図

(%) Hemingway (conjoining)



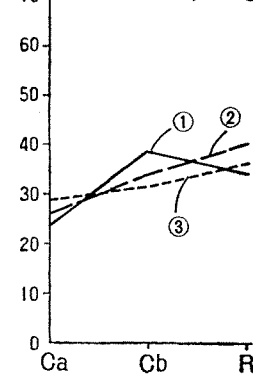
9・4 図

(%) Time (conjoining)



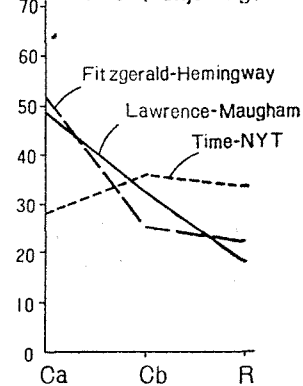
9・5 図

(%) NYT (conjoining)



9・6 図

(%) 平均 (conjoining)



9・7 図

第9表についての考察

(1) 個人文体のレベル

(a) 全体的にみて一貫性が低い。

(2) 集合文体のレベル

(a) 9.7図によれば、多用される連結詞は小説では Ca, Cb, R の順であるが、Time-NYT ではCb, R, Caの順になっている。

(3) 英語の文体のレベル

(a) 決定的なパターンはない。

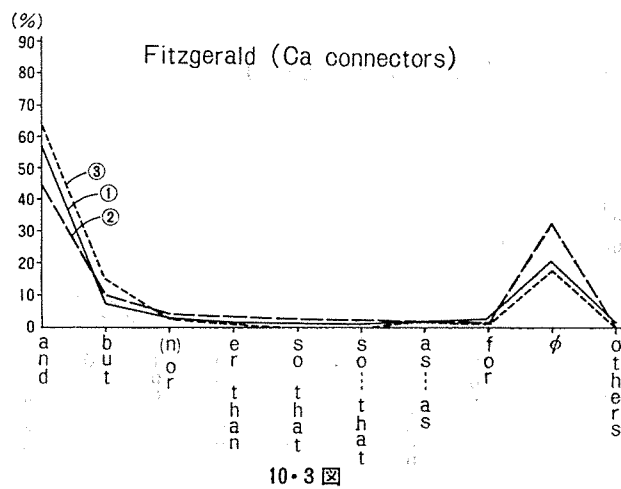
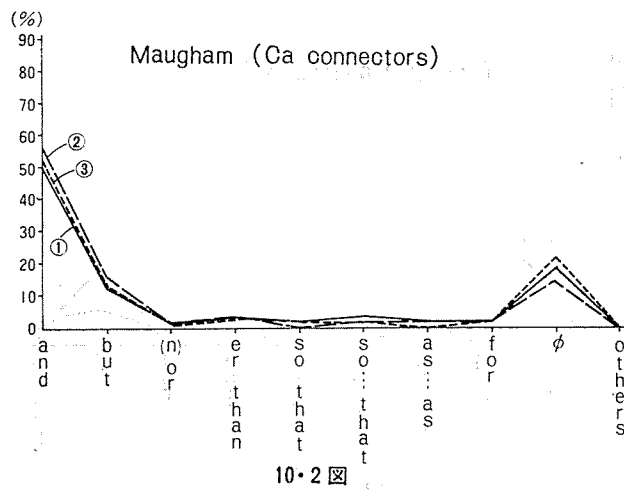
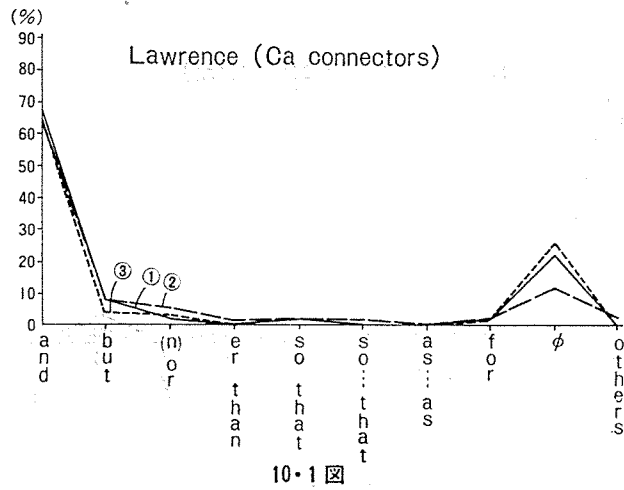
3.10. 連結詞Caの下位分類の分布パターン

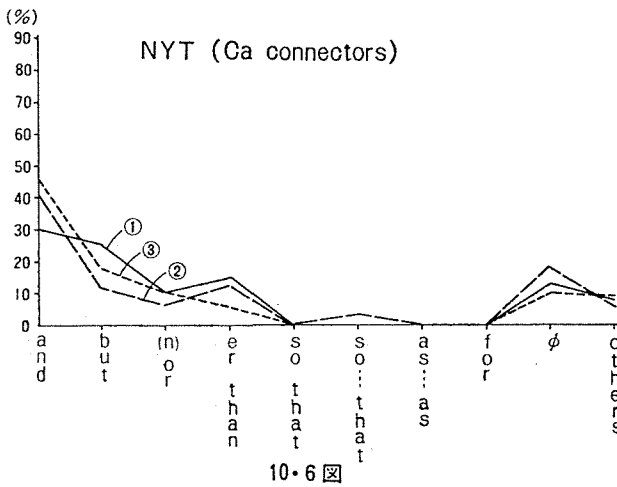
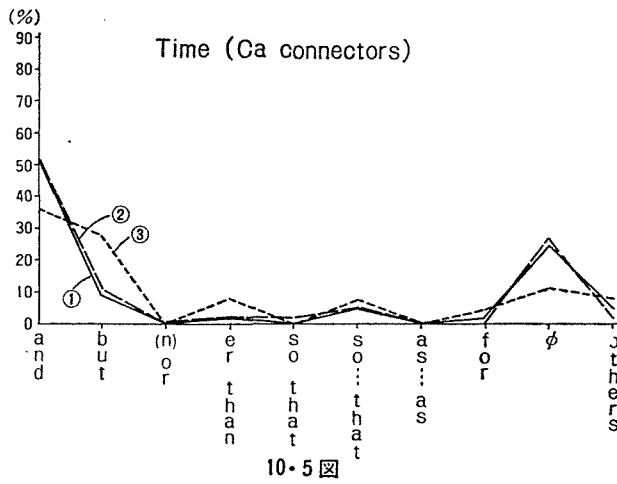
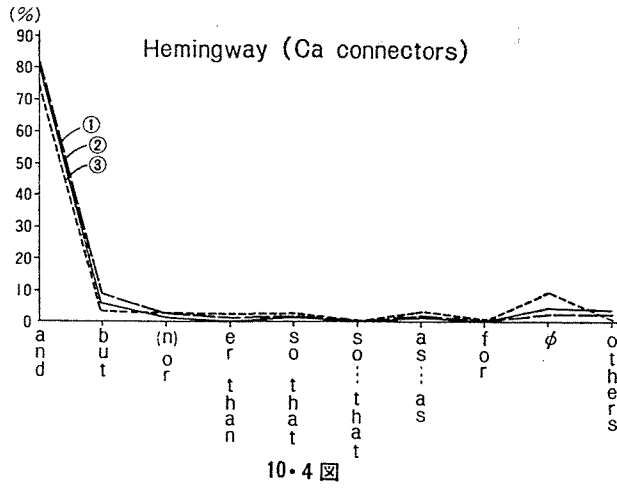
Ca	Lawrence			Maugham			Fitzgerald			Hemingway			Time			NYT		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
a n d	(%) 67.2	66.0	66.0	51.6	56.3	53.6	58.4	44.8	63.0	81.5	80.5	75.5	52.8	52.8	36.0	30.0	41.4	46.0
b u t	7.2	7.7	4.4	12.6	15.0	13.6	7.2	10.4	15.0	6.9	8.6	3.2	9.6	11.0	28.8	25.0	11.5	18.0
(n)or	1.6	6.1	3.3	1.8	1.8	1.6	2.4	3.2	2.0	0.7	2.0	1.9	0	0	0	10.0	6.9	10.0
er than	0	1.1	0	3.0	2.6	2.4	0.8	3.2	1.0	0	0.7	1.9	2.4	2.2	7.2	15.0	13.8	6.0
so that	0.8	1.1	1.1	1.2	0	1.6	0.8	1.6	0	1.4	1.3	3.8	0	2.2	0	0	0	0
so...that	0	1.1	0	3.0	1.8	0.8	0.8	1.6	0	0	0	0	4.8	4.4	7.2	0	2.3	0
as...as	0	0	0	0.6	0.9	0	1.6	1.6	2.0	1.4	1.3	2.6	0	0	0	0	0	0
f o r	0.8	1.1	1.1	1.8	1.8	0.8	2.4	0.8	1.0	0	0	0	2.4	0	3.6	0	0	0
≠	21.6	12.1	24.2	18.3	15.8	21.6	20.8	32.8	18.0	4.1	1.3	9.0	24.0	26.4	10.8	12.5	18.4	10.0
others	0	1.1	0	0	3.6	0.8	0.8	0.8	0	3.5	2.6	0.6	4.8	2.2	7.2	7.5	6.9	8.0

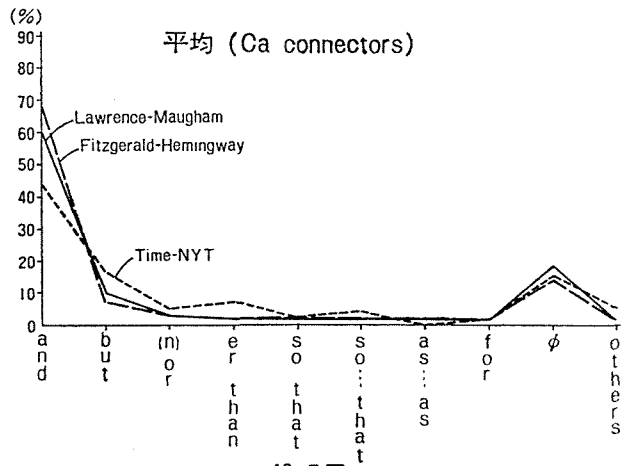
第 10 表

上表において、≠はコンマやダッシュやコロンのなどで文が並列されている場合を示している。
others はつぎのような連結詞を含んでいる : too---Sto, such---that, then, not only---but also, er---er, such---as, as well as, etc.

第10表のグラフを第10図に示す。







10・7 図

第10表についての考察

(1) 個人文体のレベル

(a) 10.1 図から10.4 図まででは安定したパターンがみられるが、Time と NYT ではパターンがみだれている。

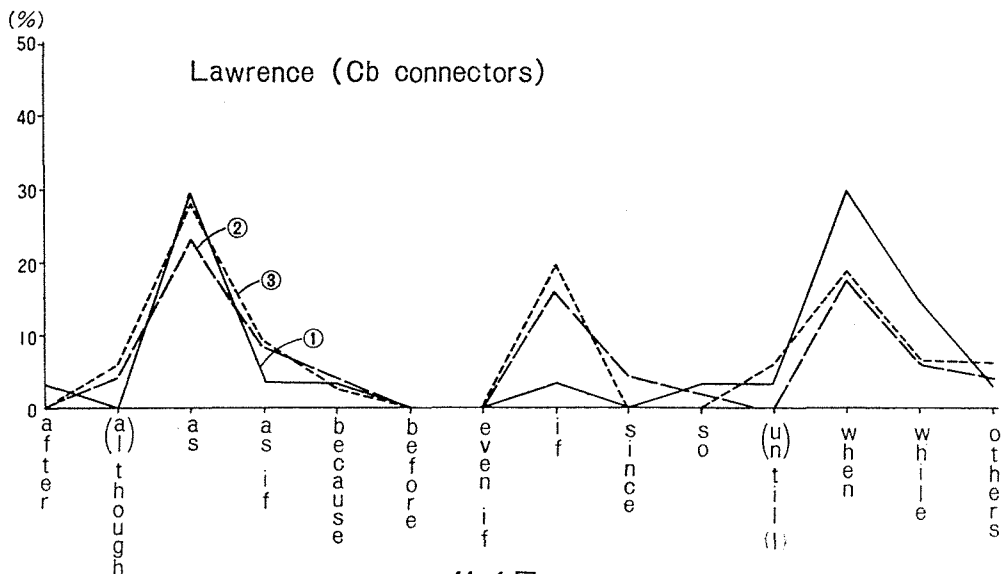
(2) 集合文体のレベル

(a) 小説と NYT とでは、*and*, *but*, *er* --- *than*, において差がみられる。その他の連結詞については差はない。

(3) 英語の文体のレベル

(a) Ca としては *and* が圧倒的に多用され、*but*, *or* がつづいている。

3.11. 連結詞 Cb の下位分類の分布パターン



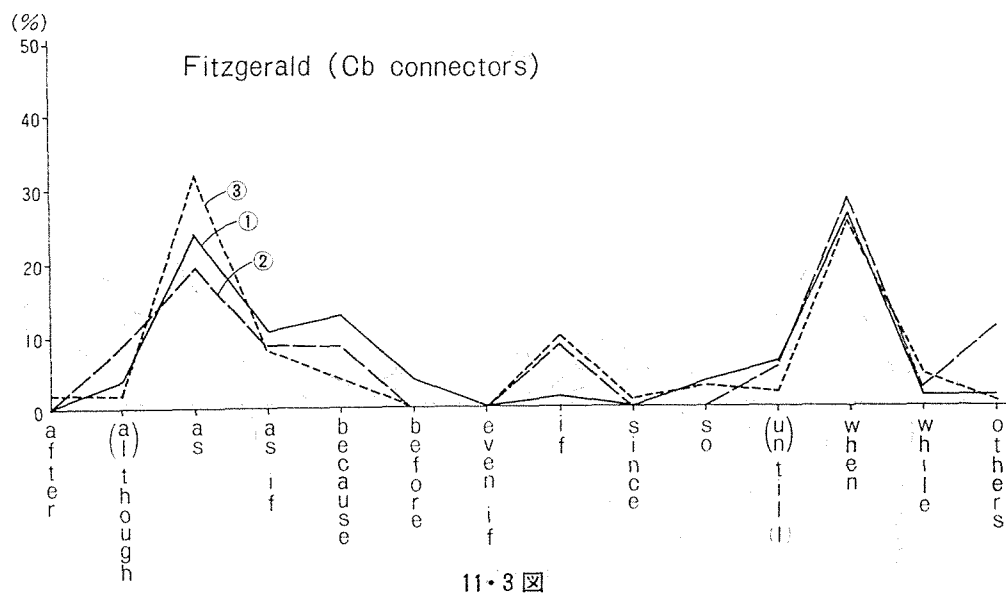
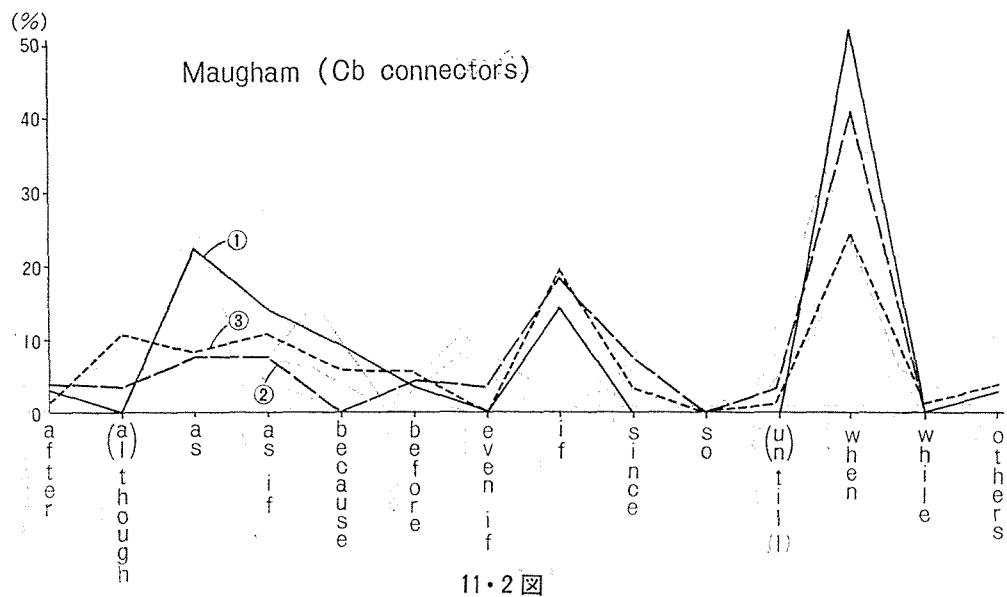
11・1 図

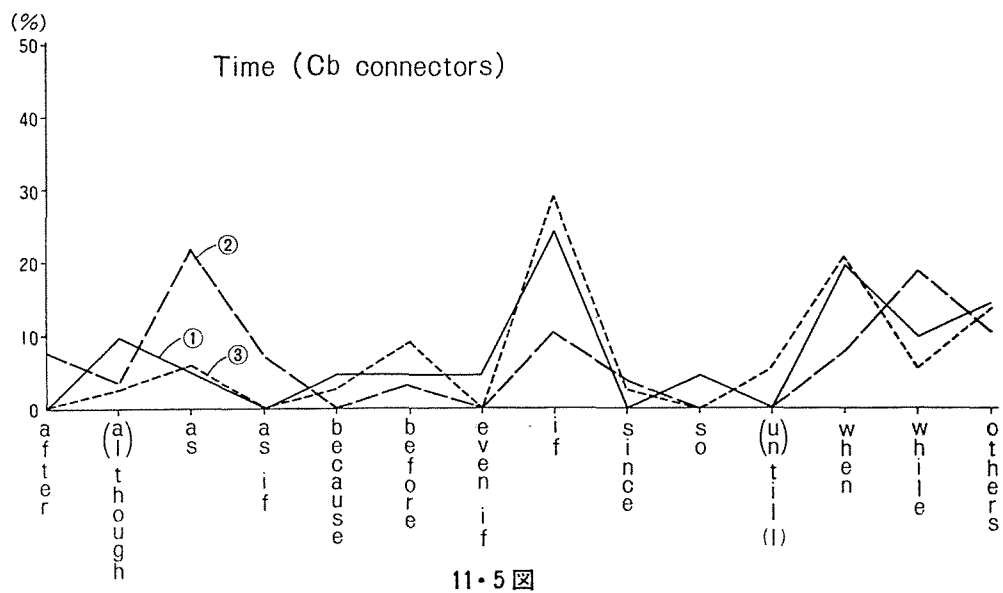
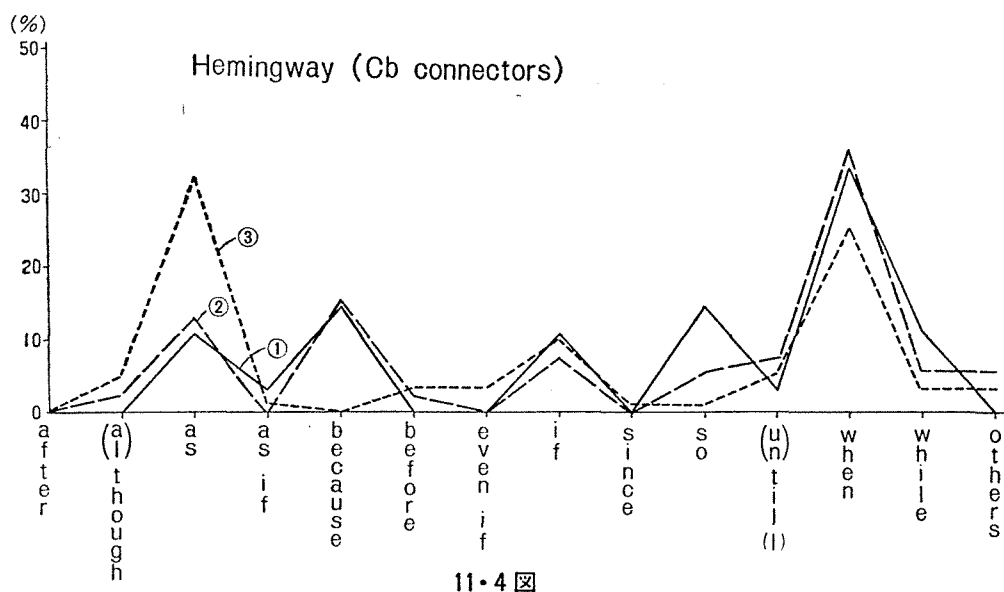
C b	Lawrence			Maugham			Fitzgerald			Hemingway			Time			N Y T		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
after	(%) 3.7	0	0	2.9	3.7	1.9	0	0	2.0	0	0	0	0	7.4	0	0	6.2	0
(al)though	0	4.2	6.4	0	3.7	11.4	4.4	8.4	2.0	0	2.6	5.4	9.6	3.7	3.0	2.9	0	3.5
a s	29.6	23.1	28.4	22.8	7.4	7.6	24.2	19.6	32.0	11.1	13.0	32.4	4.8	22.2	6.0	23.2	31.0	14.0
as if	3.7	8.4	9.6	14.3	7.4	11.4	11.0	8.4	8.0	3.7	0	1.8	0	7.4	0	0	3.1	0
because	3.7	4.2	3.2	8.6	0	5.7	13.2	8.4	4.0	14.8	15.6	0	4.8	0	3.0	0	0	14.0
before	0	0	0	2.9	3.7	5.7	4.4	0	0	0	2.6	3.6	4.8	3.7	8.9	0	3.1	10.5
even if	0	0	0	0	3.7	0	0	0	0	0	0	3.6	4.8	0	0	5.8	0	0
if(unless)	3.7	16.8	19.2	14.3	18.5	19.0	2.2	8.4	10.0	11.1	7.8	10.8	24.0	11.1	29.5	40.6	24.8	38.5
since	0	4.2	0	0	7.4	3.8	0	0	2.0	0	0	1.8	0	3.7	3.0	2.9	6.2	3.5
s o	3.7	2.1	0	0	0	0	4.4	0	4.0	14.8	5.2	1.8	4.8	0	0	0	0	0
(un)til(1)	3.7	0	6.4	0	3.7	1.9	6.6	5.6	2.0	3.7	7.8	5.4	0	0	6.0	2.9	0	0
when	29.6	17.3	19.2	54.2	40.7	24.7	26.4	28.0	26.0	33.3	36.4	25.2	19.2	7.4	21.0	8.7	9.3	0
while	14.8	6.3	6.4	0	0	1.9	2.2	2.8	4.0	11.1	5.2	3.6	9.6	18.5	6.0	5.8	6.2	0
others	3.7	4.2	6.4	2.9	0	3.8	2.2	11.2	2.0	0	5.2	3.6	14.4	11.1	14.8	8.7	9.3	17.5

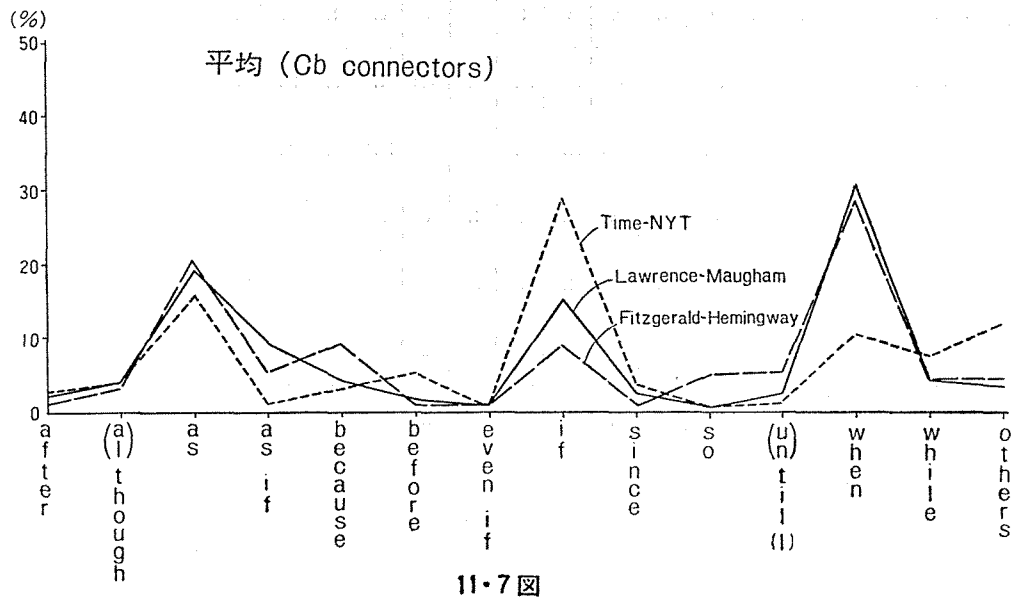
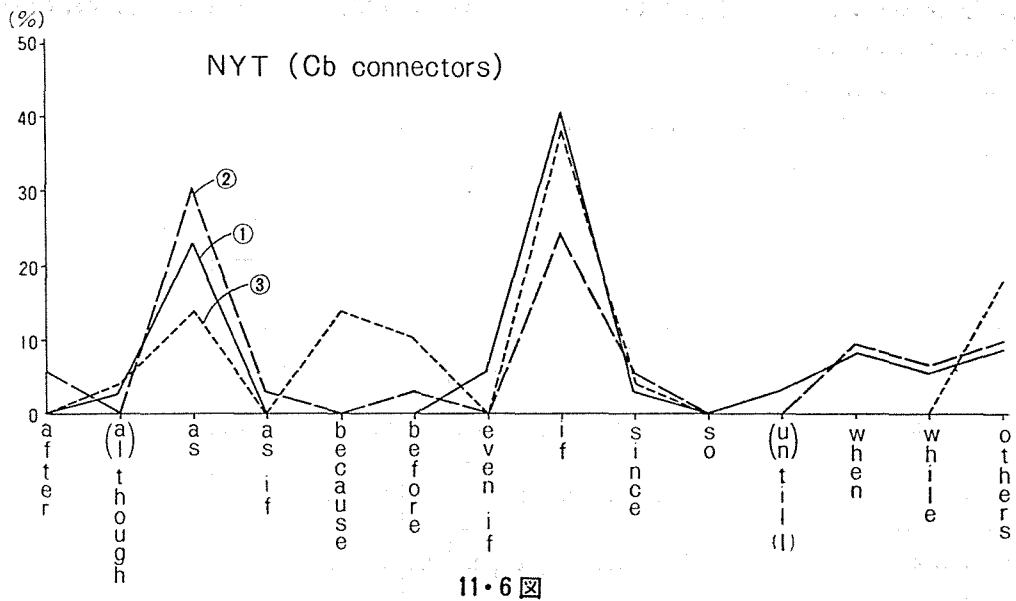
第 11 表

上表において, others はつぎの連結詞を含む: *as long as, as far as, once, now that, lest, in order that, the moment, the minute, albeit, except, whether, etc.*

第11表のグラフを第11図に示す。







第11表についての考察

(1) 個人文体のレベル

(a) 作品により変動が大きい

(2) 集合文体のレベル

(a) 小説と Time-NYT とのちがいは, *if*, *when*, *others* などにおいてみられる。

(b) 小説では *when* が圧倒的に多用され, *as*, *if* がそれにつづいている。そしてこれら三

者の分布パターンは比較的安定している。一方、Time-NYTでは *if* が圧倒的に多く、*as*, *when* がそれにつづいている。

(3) 英語の文体のレベル

(a) Cbとして多用されるのは、*when*, *if*, *as* などである。

3.12. 連結詞 *and* の両端にあらわれる構造型の分布パターン

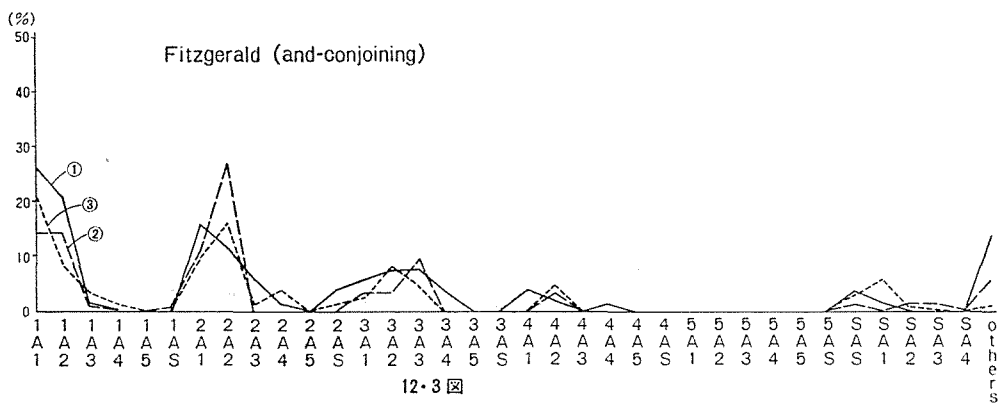
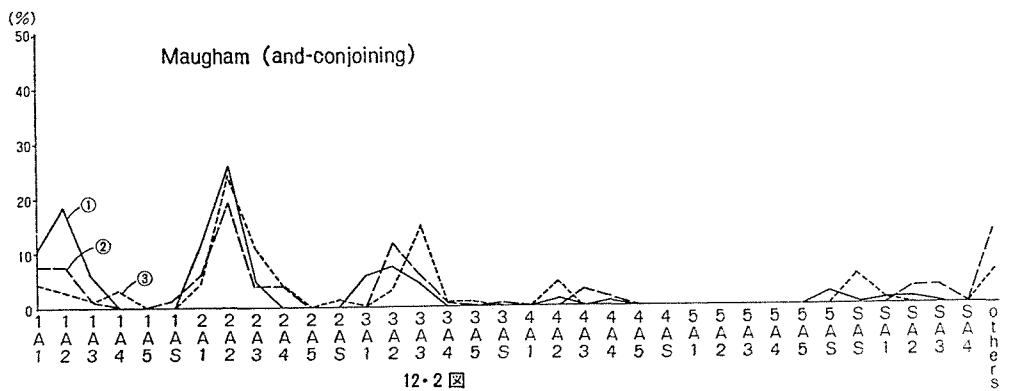
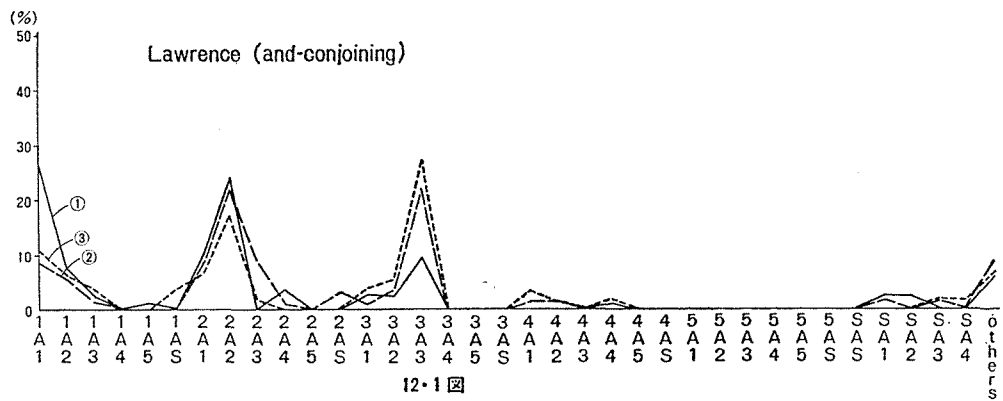
and	Lawrence			Maugham			Fitzgerald			Hemingway			Time			NYT		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
1 A 1	(%) 26.4	8.5	10.2	10.8	7.5	4.5	26.6	14.4	20.8	22.0	13.2	13.0	0	4.2	10.0	16.6	0	4.3
1 A 2	7.2	5.1	6.8	18.0	7.5	3.0	20.9	14.4	8.0	8.0	11.3	15.0	16.6	4.2	0	0	5.6	4.3
1 A 3	2.4	1.7	3.4	6.0	1.5	1.5	1.9	1.8	3.2	0	1.9	2.0	0	4.2	0	0	0	0
1 A 4	0	0	0	0	0	3.0	0	0	1.6	1.0	3.8	0	0	0	0	0	0	0
1 A 5	1.2	0	0	0	0	0	0	0	0	1.0	0.9	0	0	0	0	0	0	0
1 A S	0	0	3.4	0	1.5	0	0	1.8	0	0	6.6	1.0	0	0	0	0	0	0
2 A 1	9.6	8.5	6.8	12.0	6.0	4.5	15.2	10.8	9.6	8.0	1.9	5.0	16.6	0	10.0	8.3	0	0
2 A 2	24.0	22.1	17.0	26.4	19.5	24.0	11.4	27.0	16.0	13.0	10.3	19.0	8.3	42.0	30.0	24.9	50.4	34.4
2 A 3	0	8.5	1.7	4.8	4.5	10.5	5.7	0	1.6	0	2.8	3.0	0	8.4	10.0	8.3	5.6	0
2 A 4	3.6	1.7	0	0	4.5	4.5	1.9	0	3.2	0	0.9	2.0	0	12.6	0	0	0	0
2 A 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 A S	0	3.4	0	0	0	1.5	3.8	0	1.6	1.0	0.9	1.0	0	0	0	0	0	0
3 A 1	2.4	1.7	3.4	6.0	0	3.0	5.7	3.6	3.2	2.0	5.6	5.0	16.6	0	0	0	11.2	0
3 A 2	2.4	3.4	5.1	7.2	12.0	3.0	7.6	3.6	7.8	6.0	5.6	5.0	8.3	4.2	10.0	0	0	8.6
3 A 3	9.6	22.1	27.2	4.8	6.0	15.0	7.6	9.0	4.8	12.0	8.5	3.0	8.3	4.2	10.0	33.2	16.8	17.2
3 A 4	0	0	0	0	0.5	0.5	3.8	0	0	1.0	0.9	0	0	0	0	0	0	0
3 A 5	0	0	0	0	0	0.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3 A S	0	0	0	0	0.5	0	0	0	0	1.0	0.9	1.0	0	0	0	0	0	0

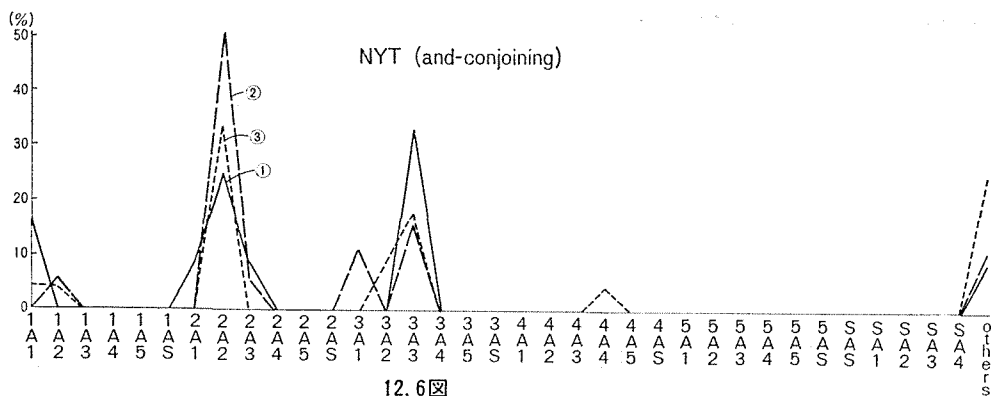
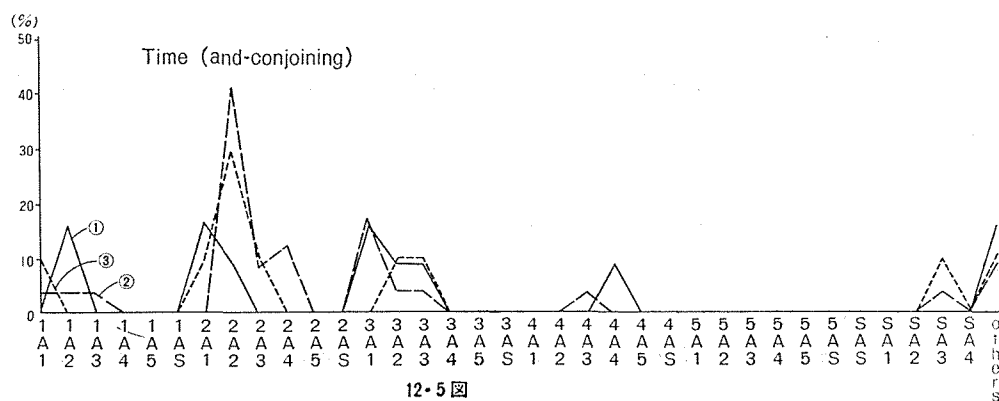
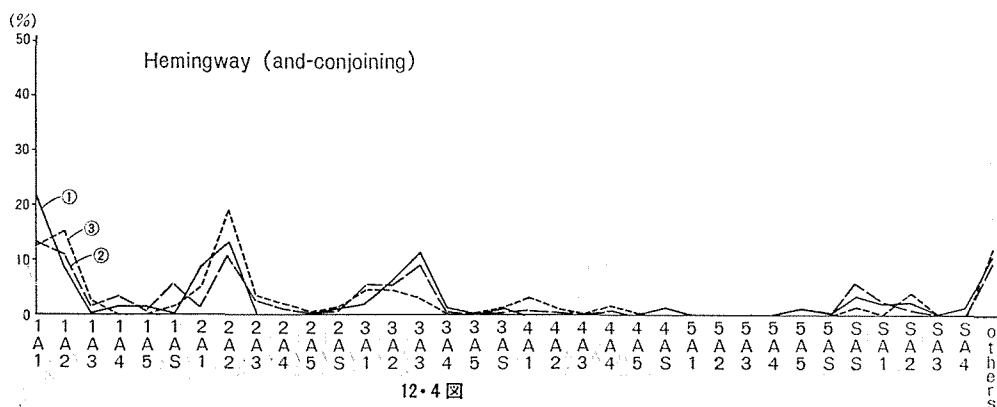
4 A 1	0	1.7	3.4	0	0	0	3.8	0	0	0	1.9	3.0	0	0	0	0	0	0
4 A 2	0	1.7	1.7	1.2	3.0	4.5	1.9	3.6	4.8	0	0.9	1.0	0	0	0	0	0	0
4 A 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4.2	0	0	0	0
4 A 4	1.2	0	1.7	1.2	1.5	0	1.9	0	0	0	1.9	2.0	8.3	0	0	0	0	4.3
4 A 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 A S	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 A 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 A 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 A 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 A 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 A 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 A S	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
S A S	0	0	0	2.4	0	6.0	3.8	1.8	3.2	1.0	5.6	2.0	0	0	0	0	0	0
S A 1	2.4	1.7	0	1.2	0	1.5	1.9	0	6.4	2.0	2.8	0	0	0	0	0	0	0
S A 2	2.4	0	0	1.2	3.0	0	0	1.8	1.6	3.0	0.9	4.0	0	0	0	0	0	0
S A 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
S A 4	0	0	1.7	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0
others	6.0	8.5	6.8	0	13.5	6.0	13.3	5.4	1.6	11.0	8.5	12.0	16.6	8.4	10.0	8.3	11.2	25.8

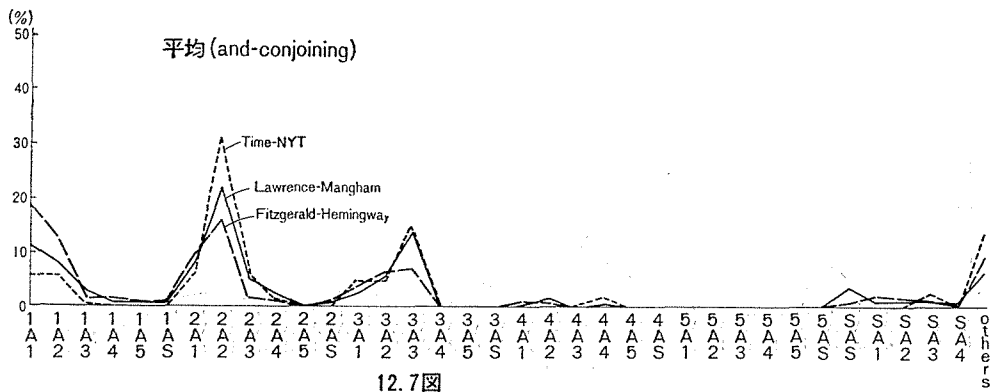
第 12 表

上表の記号について。たとえば、3 A 3 の A は *and* のことで、A の両端の数字は構造型のタイプを示している。したがって、3 A 3 は Type 3 の二つの構造が *and* によって連結されていることをあらわしている。また、4 AS などの S はいくつかの構造がすでに連結されているものである。最後に、others は二つ以上の構造が連結されているものである。e.g. Type 1, Type 1, Type 1 and Type 1, etc.

第12表のグラフを第12図に示す。







第12表についての考察

(1) 個人文体のレベル

(a) かならずしも安定したパターンはみられないが、連結の種類 (variety) は比較的安定している。

(2) 集合文体のレベル

(a) 小説と Time-NYT との差は 1 A 1 や 2 A 2 でみられるが、その他の連結様式では差はない。

(3) 英語の文体のレベル

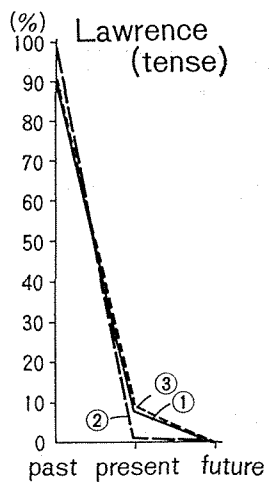
(a) *and* の両端に同じタイプの構造がくる連結様式がこのまれる。とくに、1 A 1, 2 A 2, 3 A 3, etc. そのほか、1 A 2, 2 A 1, 3 A 2 など、Type 1 と Type 2 の組み合わせが頻用される。

3.13. 時制 (tense) の分布パターン

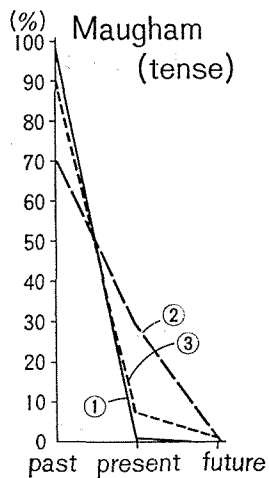
時制	Lawrence			Maugham			Fitzgerald			Hemingway			Time			N Y T		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
過去	(%) 91.9	99.8	90.1	98.8	70.2	91.7	83.5	97.0	90.1	97.7	99.8	74.5	61.2	59.6	63.2	27.6	38.9	17.5
現在	8.1	0.2	9.9	1.2	28.4	7.0	16.2	3.0	9.9	2.3	0.2	21.6	38.0	37.6	35.2	67.6	59.2	76.0
未来	0	0	0	0	1.4	1.3	0.3	0	0	0	0	3.9	0.8	2.8	1.6	4.8	1.9	6.5

第 13 表

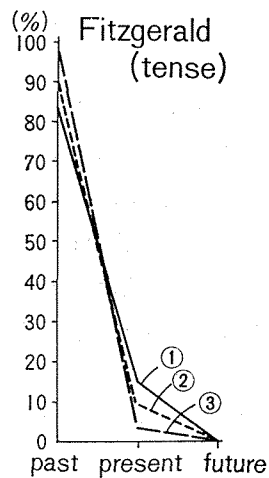
第13表のグラフを第13図に示す。



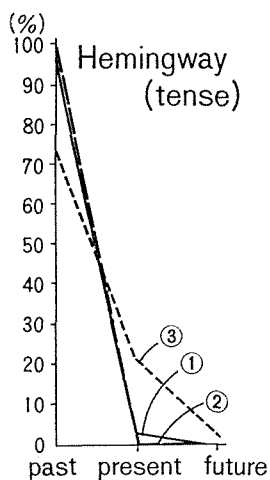
13.1図



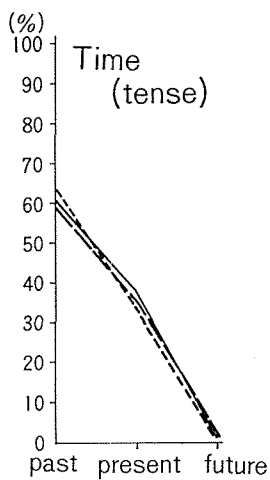
13.2図



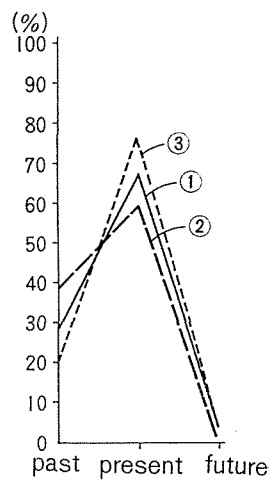
13.3図



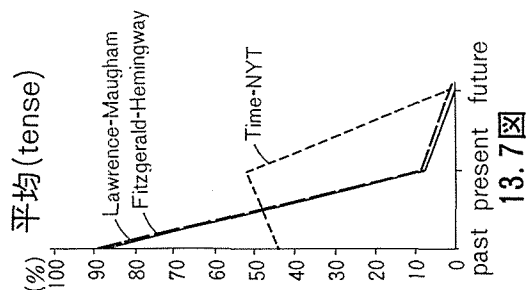
13.4図



13.5図



13.6図



13.7図

第13表についての考察

(1) 個人文体のレベル

(a) Maugham②と Hemingway③とが特別のパターンを示しているが、他の資料では安定したパターンを示している。

(2) 集合文体のレベル

(a) 小説では過去形が圧倒的に多いが、Time-NYT では過去形と現在形との差は小さい。

(3) 英語の文体のレベル

(a) 一般的なことはいえない。

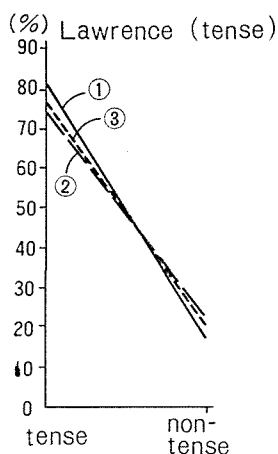
3.14. 時制をもつ構造ともたない構造の分布パターン

時制をもつ構造とはその構造の動詞が時制をあらわす形をとっているもので、時制をもたない構造とは Sto や Sing にみられるごとくそれ自体時制を表わす形をもっていないものである。

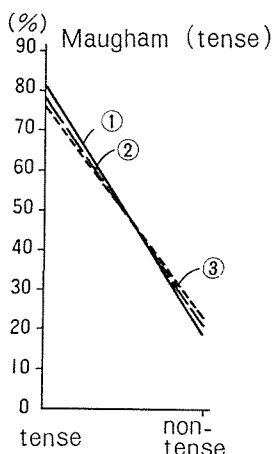
S \	Lawrence			Maugham			Fitzgerald			Hemingway			Time			NYT		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
tense	(%) 82.1	76.8	77.8	81.9	78.2	77.2	76.7	77.3	78.3	80.4	85.4	82.8	71.8	73.6	71.2	70.2	71.0	74.0
non-tense	17.9	23.2	22.2	18.1	21.8	22.8	23.3	22.7	21.7	19.6	14.6	17.2	28.2	26.4	28.8	29.8	29.0	26.0

第 14 表

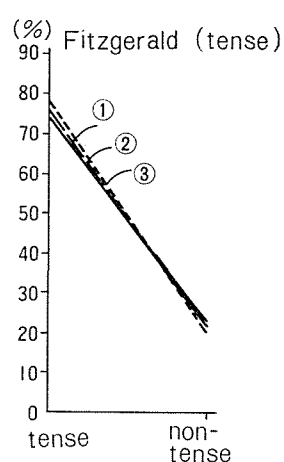
第14表のグラフは第14図。



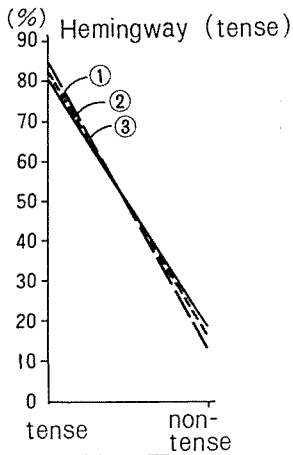
14・1 図



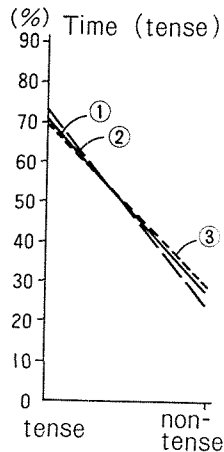
14・2 図



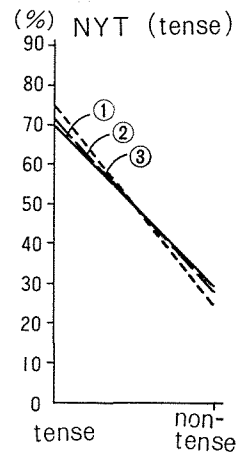
14・3 図



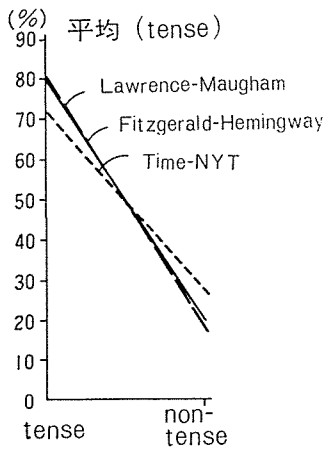
14・4 図



14・5 図



14・6 図



14・7 図

第14表についての考察

(1) 個人文体のレベル

(a) 安定したパターンである。

(2) 集合文体のレベル

(a) 小説では、Time-NYT に比較して、時制のある構造の方が多用される。

(3) 英語の文体のレベル

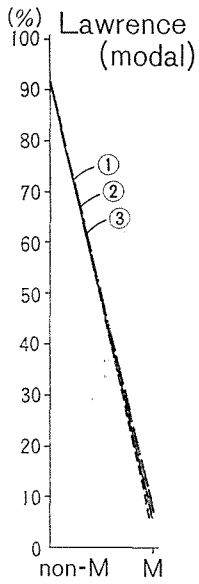
(a) 70% 以上は時制のある構造が用いられる。

3.15. 法助動詞 (modal aux.) の分布パターン

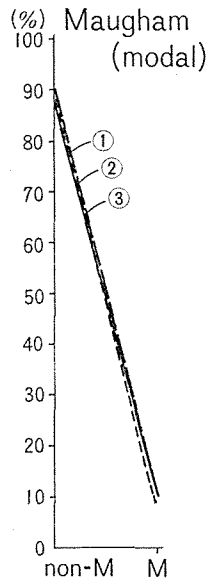
	Lawrence			Maugham			Fitzgerald			Hemingway			Time			NYT		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
modal	(%)																	
non-modal	93.8	91.9	92.5	89.9	90.0	89.3	95.8	93.3	93.0	95.4	91.0	88.0	89.2	95.6	84.0	82.4	85.9	80.2
modal	6.2	8.1	7.5	10.1	10.0	10.7	4.2	6.7	7.0	4.6	9.0	12.0	10.8	4.4	16.0	17.6	14.1	19.8

第 15 表

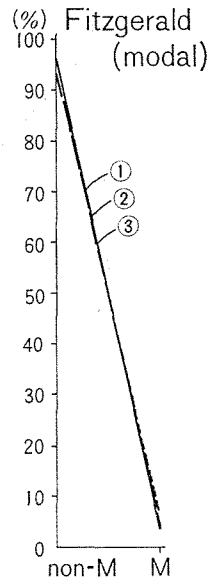
第15表のグラフは第15図。



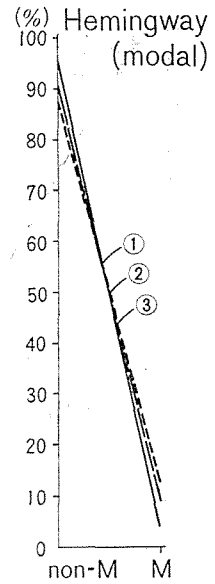
15.1図



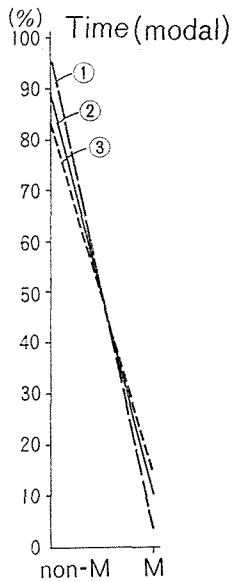
15.2図



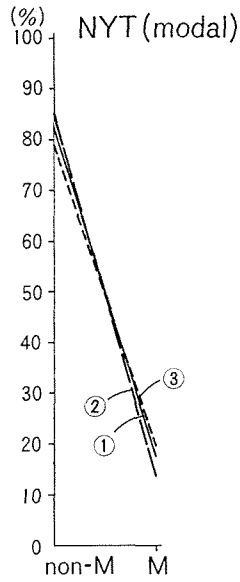
15.3図



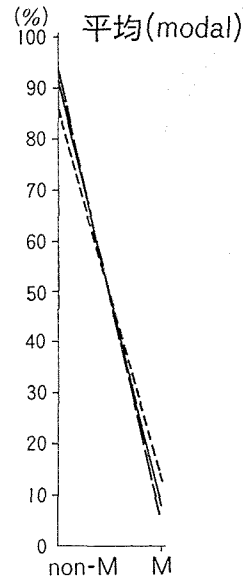
15.4図



15.5図



15.6図



15.7図

第15表についての考察

(1) 個人文体のレベル

(a) 安定したパターンを示す。

(2) 集合文体のレベル

(a) 15.7図でみると、小説と Time-NYT との間にはわずかな差があるが、ほとんど問題にならない程の差である。

(3) 英語の文体のレベル

(a) modalの使用は全体の10%前後である。

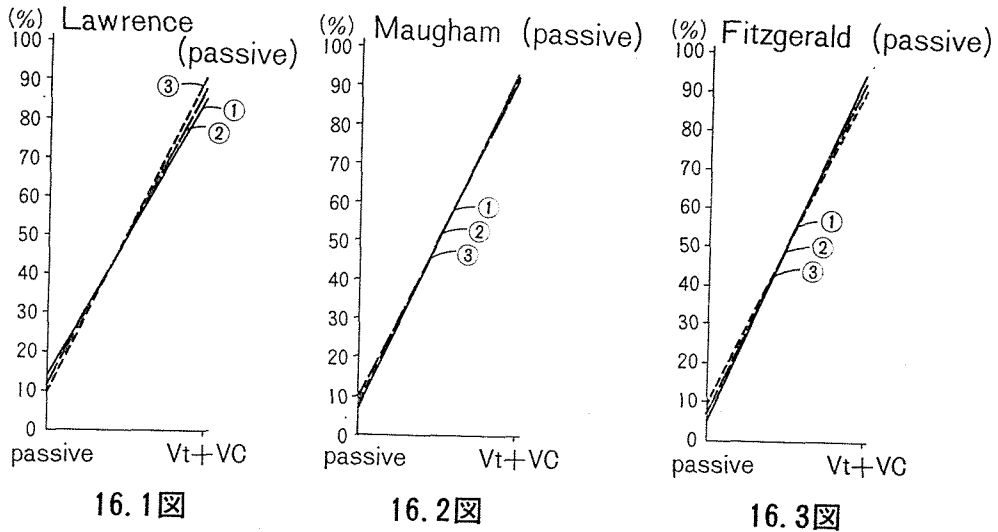
3.16. 受動態 (passive) の分布パターン

	Lawrence			Maugham			Fitzgerald			Hemingway			Time			NYT		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
passive	(%) 13.2	11.6	9.6	6.3	8.7	7.5	6.4	7.6	8.8	9.2	7.0	6.8	7.2	12.0	10.4	12.0	13.8	14.4
non-passive	86.8	88.4	90.4	93.7	91.3	92.5	93.6	92.4	91.2	90.8	93.0	93.2	92.8	88.0	89.6	88.0	86.2	85.6

第 16 表

上表の non-passive は Type 2 と Type 4 の中で受動態でないものからなり、もともと受動態にはなりえない Type 1 や Type 3 などを含んでいるのではない。

第16表のグラフは第16図に示す。



第16表についての考察

(1) 個人文体のレベル

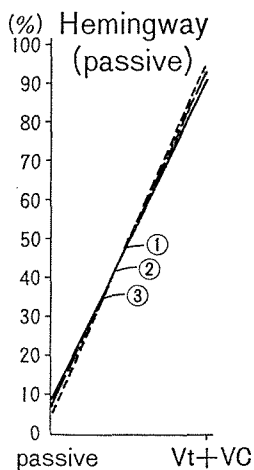
(a) 安定したパターンを示している。

(2) 集合文体のレベル

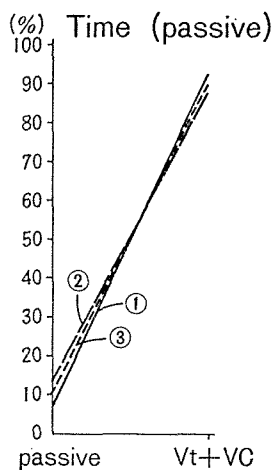
(a) 小説と Time-NYT とを区別することはできない。

(3) 英語の文体のレベル

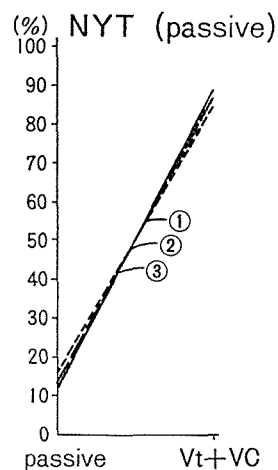
(a) 受動態は受動態になりうるすべての構造の10%前後である。



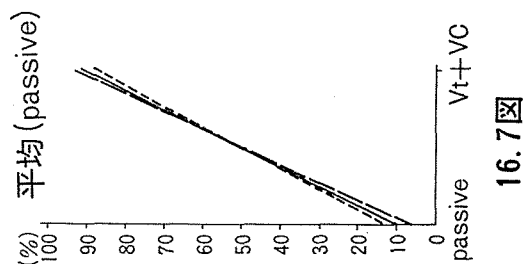
16.4図



16.5図



16.6図



16.7図

4. ま と め

4.1. 個人文体のレベル

1. 一人の作家の作品の間に差が認められる調査項目

- (a) 目的語の位置にくる ES の下位分類 (3.3)
- (b) Ca/Cb/R (3.9)
- (c) *and*-conjoining (3.12)
- (d) Cb の下位分類 (3.11)

2. 一人の作家の作品の間に差があるときとないときとがある調査項目

- (a) 構造型 (3.1)
- (b) Complement の下位分類 (3.4)
- (c) 主語の位置にくる N_a^d の下位分類 (3.5)
- (d) tense (3.13)

3. 一人の作家の作品の間に差がないと認められる項目

- (a) 目的語の位置にくる N/ES (3.2)
- (b) 主語の位置にくる Nd/N-d, etc. (3.6)
- (c) 主語の位置にくる Na/N-a, etc. (3.7)
- (d) 主語の位置にくる N/pro-N (3.8)
- (e) Ca の下位分類 (3.10)
- (f) tense/non-tense (3.14)
- (g) modal/non-modal (3.15)
- (h) passive/non-passive (3.16)

4.2. 集合文体のレベル

1. 集合の間に差が認められる項目

- (a) 構造型 (3.1)
- (b) Complement の下位分類 (3.4)
- (c) 主語の位置にくる N^d の下位分類 (3.5)
- (d) 主語の位置にくる Nd/N-d, etc. (3.6)
- (e) 主語の位置にくる Na/N-a, etc. (3.7)
- (f) 主語の位置にくる N/pro-N (3.8)
- (g) Ca/Cb/R (3.9)
- (h) Caの下位分類 (3.10)
- (i) tense (3.13)

2. 集合の間に差があるときとないときとがある項目

- (a) 目的語の位置にくるESの下位分類 (3.3)
- (b) Cb の下位分類 (3.11)
- (c) *And*-conjoining (3.12)

3. 集合の間に差がないと認められる項目

- (a) 目的語の位置にくる N/ES (3.2)
- (b) modal/non-modal (3.15)
- (c) passive/non-passive (3.16)

(1968年9月6日)

DATA

- Lawrence, D. H., *The White Peacock* (Penguin Books) 1961.
Sons and Lovers (Penguin Books) 1956.
Lady Chatterley' s Lover (Penguin Books) 1961.
- Maugham, W. S., *Of Human Bondage* (Penguin Books) 1966.
The Moon and Sixpence (Penguin Books) 1967.
Cakes and Ale (Penguin Books) 1960.
- Fitzgerald, F. S., *The Great Gatsby* (New York: Charles Scribner' s Sons) 1953.
Tender is the Night (New York: Charles Scribner's Sons) 1953.
The Last Tycoon (New York: Charles Scribner' s Sons) 1953.
- Hemingway, E., *The Sun Also Rises* (New York: Charles Scribner's Sons) 1954.
A Farewell to Arms (Penguin Books) 1962.
The Old Man and the Sea (New York: Charles Scribner's Sons) 1962.
- Time*: March 11, 25, April 8, May 27, June 24, July 8, 15, August 12, 26,
September 2, October 7, 21, 28, December 16, 30 (1966) ; January 13, February
3, 24 (1967).
- The New York Times*: January 7, 14, 21, 28, February 4, 11, 18, 25, March 3, 10, 17, 24, 31, April
7, 14, 21, 28, May 5 (1968).